

第2章 授業研究

低学年 分科会（第1学年）

麻布小学校教育目標 元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

低学年分科会として目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

低学年児童の実態

- ・学習意欲は高いが、言葉に着目せず読み取りが不十分であったり、自分の考えをもっているが表現できなかったりする児童が少なくない

低学年分科会 教師の願い

- ・重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことを伝え合うことができるようにしたい。

主体的に学ぶ姿勢

- ・言葉に着目して、考えをもつ。
- ・観点をもち、文章から読み取ったことを整理する。

豊かに表現する姿

- ・読み取ったことをもとに、分かったことを伝え合おうとする。

カリキュラム・
マネジメントの
視点

手立て1

ICT 機器の活用

- ・「問い」と「答え」を観点別に色分けしたり、線を引き直したりしながら、視覚的に分かりやすくするために、デジタル教科書を活用する。

手立て2

振り返りの充実

- ・毎時間、本時のねらいに沿って、自分のめあてを設定し、振り返りを行う。「よくできた」「できた」「次はがんばりたい」の3観点で自己評価し、分かったことや次時で頑張りたいことなどを自由に記述したりできるようにし、学習の積み重ねを実感できるようにする。また、読み取ったことに対しての思いや考えを書くことで、思いや考えを相手に伝えるきっかけにする。

手立て3

地域材の活用

- ・本校は、近隣で工事が行われている環境にあることから、児童にとって、工事車両はよく目にする働く車である。そのため、学習の導入として、工事車両を見学し、大きさや迫力をより身近に感じることができるようになる。

手立て4

自分の思いや考えをもつための工夫

- ・カードの工夫
本単元、次単元において、授業内で同一形式のカードを使うことで、読み取ったことを書いたり比べたりしやすくする。
- ・言葉に着目する手立て
既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、大事な言葉に線を引く。また、前時までの自動車の「つくり」を短冊にして提示する。

手立て5

対話活動の充実

- ・4つの対話（教師、作品、友達、自分）を意図的に展開していく。ペアでの学習を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。

手立て6

語彙を豊かにする日常活動

- ・年間通して設定されている「たのしいことばあそび」の単元や、ぐんぐんタイム、家庭学習での文作りの活動などを通して、語彙を増やし、適切に使えるようにする。

〈図工科との関連〉

- ・働く自動車への関心を高めることで、2年生での消防写生会への意欲につなげる。

〈生活科との関連〉

- ・自分の身の回りの工事車両や警察車両を間近で見ること、「なかよしみつかる つうがくろ」の学習での通学路の様子や安全を守るための工夫に気付く。

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和3年10月6日(水)

対象 第1学年2組25名

授業者 前川 裕希

研究主題

主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

低学年分科会の目指す児童

「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

- 1 単元名 「せつめいの じゅんに きを つけて よもう」
教材名 「じどう車くらべ」 (光村図書 第1学年下巻)

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【知(2)ア】
- ・ 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【思-C(1)ア】
- ・ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思-C(1)ウ】
- ・ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、言葉を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	① 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【C-(1)ア】 ② 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【C-(1)ウ】	① 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、言葉を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

3 本単元について

(1) 単元の設定理由

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語編第1学年及び第2学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

【知識及び技能】

(2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】

C 読むこと

(1) ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。

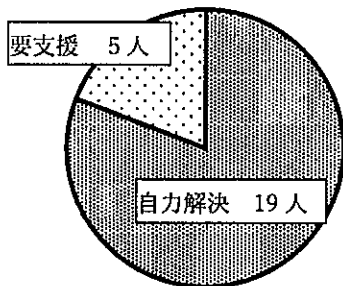
ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

本単元では、3つの自動車の説明を読み、それぞれの「しごと」と「つくり」を読み取っていく。「しごと」をするためにどういう「つくり」になっているか、「そのために」という言葉に着目し、捉えるようにしていく。デジタル教科書から、「しごと」と「つくり」の書いてあるところに線を引く学習は、段階を踏み、はじめは教師と、次にペア、個人というように、自力解決できるようにした。また、穴埋め式のカードから、徐々に、穴埋めが少なくなり、自分で重要な語句を書き抜きできるようなカードを使用していく。

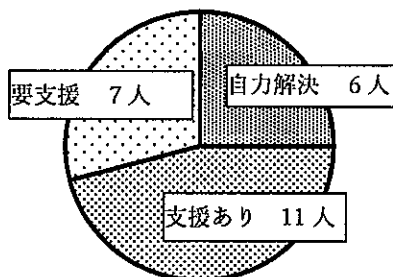
次単元では、本を基にして、重要な語や文を選び出し、自動車図鑑を作る言語活動「じどう車ずかんをつくろう」が設定されている。本単元の終わりには、次単元へ向けて、絵や動画から、「しごと」や「つくり」を考え、自分で自動車図鑑を作る書く単元と連動した学習内容を設定した。

(2) 児童の実態について

「うみのかくれんぼ」読み取り
(ワークシート、テスト)



図鑑作り



物語文とは違う説明文にも、抵抗なく学習に取り組んでいる。「問い」に対して「答え」がある文の構造に着目し、新しい事柄を知る楽しさを味わいながら学習している。「うみのかくれんぼ」の学習の振り返りでは、「一人でできた。」「次の生き物も楽しみ。」などの学習感想があった。

「うみのかくれんぼ」では、「問い」に対しての「答え」を本文から読み取る（大体の内容を捉える、重要な語句を選ぶ）ことができた児童は約8割、外国籍等で、教師の支援が必要な児童は約2割いた。また、「うみのかくれんぼずかん」を作るため、本や図鑑から大体の内容を捉え、重要な語句を選び出すことができた児童は、約3割だった。形式的に書かれていない分から読み取る難しさや、「問い」に対しての「答え」以外のことが書かれており、必要なことを読み取る難しさがあったと推測される。

デジタル教科書は使い始めたばかりで、不慣れなところもある。しかし、簡単に書いたり消したりすることができることから、機能を楽しみながら学習に取り組んでいる。

(3) 教材について

「それぞれの じどう車は、どんな しごとを して いますか。」「その ために どんな つくりに なって いますか。」という二つの問いの文に対して、三つの事例を挙げながら説明している文章である。三つの事例は、バス、トラック、クレーン車のように、児童の身近なものから順に挙げられており、説明の順にも「しごと」→「つくり」という一定の型が見られる。

既習の「くちばし」や「うみの かくれんぼ」と比べて特徴的なのは、二つの「問い」の間に因果関係が見られる点である。どの事例においても「しごと」に合わせた「つくり」が説明されている。

「答え」の文では、「しごと」と「つくり」を「そのために」という言葉が繋げている。「しごと」は一文で、「つくり」は二文で説明されている。「つくり」の文には、多少その「つくり」にした意図が説明されているが、説明されていない部分に関しては、挿絵や本を参に見童に考えさせることで、理解が深まることが期待できる。

また、「しごと」「うで」「あし」など、自動車を擬人化した説明が複数見られたり、文章の下部にはそれぞれの自動車の挿絵があつたりする。これは、読み手に挿絵と文章を対応させて理解してもらおうという書き手の説明の工夫であることも捉えさせていく。

【学習材の分析】

④	③	②	①	
<p>(仕事) クレーン車は、重い荷物をつり上げる仕事をしている。</p> <p>(作り) 丈夫な腕が、伸びたり動いたりするようになっている。</p> <p>(作り) しっかりした足が付いている。</p>	<p>(仕事) トラックは荷物を運ぶ仕事をしている。</p> <p>(作り) 広い荷台になっている。</p> <p>(作り) タイヤがたくさん付いている。</p>	<p>(仕事) バスや乗用車は、人を乗せて運ぶ仕事をしている。</p> <p>(作り) 座席のところが広く作つてある。</p> <p>(作り) 大きな窓がたくさんある。</p>	<p>(話題) いろいろな自動車走っている。</p> <p>(問い) どんな仕事をしているか。</p> <p>(問い) どんな作りになっているか。</p>	<p>段落の内容</p>
<p>クレーン車 おもいものを つり上げる そのために じょうぶな うでが のびたり うごいたり するよう に しっかりした あし</p>	<p>トラック にもつを はこぶ そのために ひろい にだい タイヤが たくさん</p>	<p>バスや じょうよう車 人を のせてはこぶ そのために ぎせきの ところが ひろく 大きな まど</p>	<p>どんな しごとを して いますか。 そのために どんな つくりにな って いますか。</p>	<p>着目させたい言葉、文</p>

1年上巻「うみの かくれんぼ」同様、「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成となっている。「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という具合に、問いが二つあるため、二つの段落に分けて書かれている明確な構成である。

4 研究主題に迫るための手立て

○ 自分の思いや考えをもつための手立て

・カードの工夫

本単元、次単元において、授業内で同一形式のカードを使うことで、読み取ったことを書いたり比べやすくしたりする。

・言葉に着目する手立て

既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、大事な言葉に線を引く。また、前時までの自動車の「つくり」を短冊にして掲示する。

○ ICT 機器を活用

「問い」と「答え」を観点別で色分けし、視覚的に分かりやすくするためにデジタル教科書を活用する。

○ 対話活動の充実

「4つの対話」（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「他者との対話」）を意図的に本単元の中で展開していく。ペア学習を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。

○ 振り返りの充実

毎時間、本時のねらいに沿って、自分のめあてを設定し、振り返りを行う。「よくできた」「できた」「次はがんばりたい」の3観点で自己評価をし、分かったことや次時でがんばりたいことなどを、自由に記述できるようにし、学習の積み重ねを実感できるようにする。また、読み取ったことに対しての思いや考えを書くことで、思いや考えを相手に伝えるきっかけにする。

○ 語彙を豊かにする日常活動

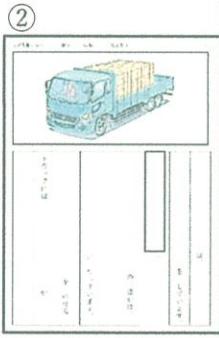
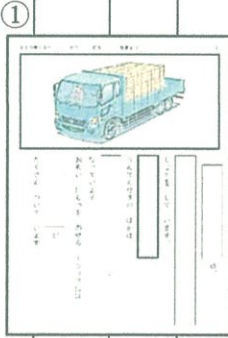
年間通して設定されている「たのしいな ことばあそび」の単元や、ぐんぐんタイム、家庭学習での文作りの活動などを通して、語彙を増やし、適切に使えるようにする。

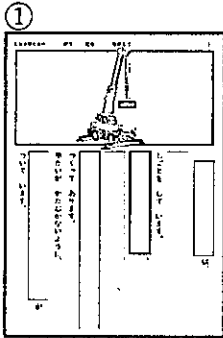
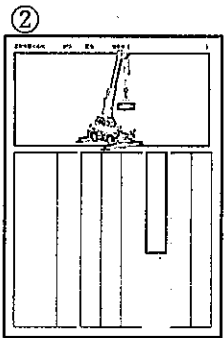
○ 地域材の活用

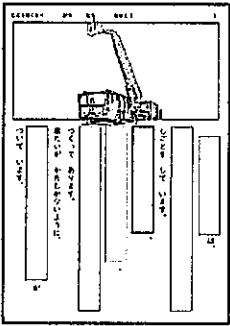
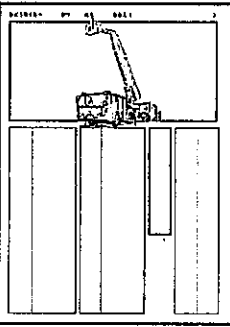
本校は、近隣で工事が行われている環境にあることから、児童にとって、工事車両はよく目にする働く車である。そのため、学習の導入として、工事車両を見学し、大きさや迫力をより身近に感じることができるようになる。

5 単元計画と評価計画 (全7時間)

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点 ☆支援	
1	1	さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味をもち、学習の見通しをもつことができる。	1 自動車の種類について、知っているものを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 既習の説明文を振り返ることができるような教室掲示をする。 自動車の種類は、児童の発言順に、第5時に向けて掲示しておく。 	
			2 本時の目標を確認する。		あたらしい がくしゅうに ついて しよう。
			3 本文の範読を聞き、出てきた自動車や、説明されていたことについて確かめる。		
			4 単元の課題を確認する。		せつめいの じゆんに きを つけて よもう。
			5 学習の流れを確認する。		
			6 本時の振り返りをする。		
2	2	バスや乗用車の説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	1 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的にも捉えやすくするために、デジタル教科書を用いて、問い①、問い②と色を変えて文を囲む。 	
			バスや じょうよう車の 「しごと」と「つくり」を まとめよう。		
			2 文章全体を読み、問いの文を見付ける。		
	3 本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、全体で共有しながらデジタル教科書に線を引く。				
	4 カードにまとめる。				
	5 本時の学習を振り返る。				
3	3	トラックの説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	1 前時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。 	
			2 本時の目標を確認する。		トラックの 「しごと」と「つくり」を まとめよう。
			3 本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。(個人)		
			4 ペアで確認後、全体で共有する。		
			5 カードにまとめる。		
			6 本時の振り返りをする。		



<p>4 本時</p>	<p>クレーン車の説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。</p>  <p>①</p>  <p>②</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りをする。 2 本時の目標を確認する。 <p>クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。(個人) 4 全体で共有する。 5 カードにまとめる。 6 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。 <p>☆ 実態に応じたカードを使用する。</p> <p>◆ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (知(2)ーア)【発言、カードの記述】</p> <p>◆ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (思C(1)ーウ)【発言、デジタル教科書、カードの記述】</p> <p>A: ②9割以上自力 B: ②6割以上自力 C: ①要支援】</p>
<p>5</p>	<p>事例の順序について考え、構成の意図を捉えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りをする。 2 本時の目標を確認する。 <p>車が できた じゆんに ついて かんがえよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 どのような順で登場したかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗ったことがある ・ 見たことがある 4 3つの自動車の説明は、全て「しごと」「つくり」の順になっていて、二つの説明が「そして」で繋がれていることについて確かめる。 5 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場した車の絵の順を全体で確認したり、第1時で児童があげた車の順をもとにしたりして、順序に拘って書かれている意図に気付かせる。 <p>☆ 児童にとって身近な車や具体的な場面を挙げる。</p> <p>◆ 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (思C(1)ーア)【発言、記述】</p>

3	6	<p>はしご車の資料から「しごと」と「つくり」を捉えることができる。</p> <p>①</p>  <p>②</p> 	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時の目標を確認する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はしご車の「しごと」と「つくり」を まとめよう。</p> <p>3 挿絵を見て、はしご車の「しごと」を想像する。</p> <p>4 動画を視聴して、「しごと」を確認する。</p> <p>5 「しごと」から、どのような「つくり」をしているか、学習した3台の車の「つくり」の言葉を選び出しながら、説明し、カードにまとめる。</p>	<p>・ 既習事項を振り返ることができるように、「つくり」カードを掲示する。</p> <p>☆ 「つくり」のカードを並び変えることで、はしご車の「つくり」が説明できるようにする。</p> <p>☆ 実態に応じたカードを使用する。</p> <p>◆ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (思C(1)-ウ)【発言、カードの記述】</p>
	7		<p>6 全体で共有する。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>8 次单元への見通しをもつ。</p>	

6 本時の展開 (4/7)

(1) 本時の目標

クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。

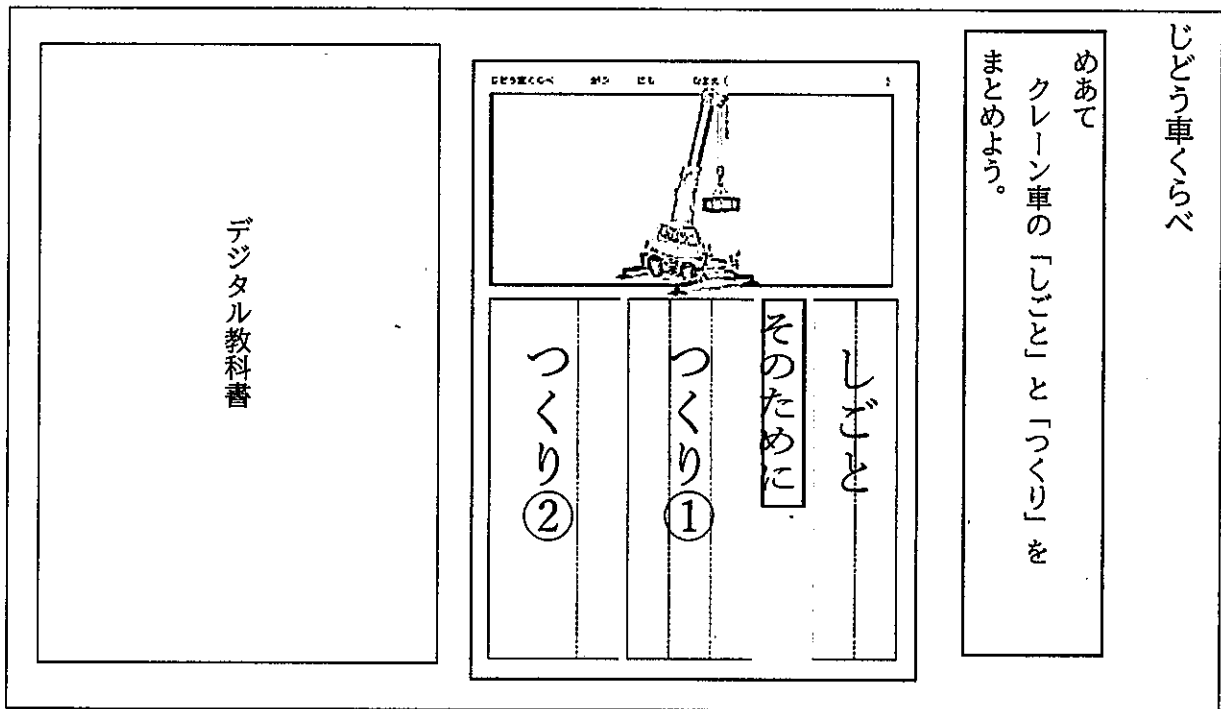
(2) 本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時までの学習を振り返る。		・ まとめたカードを掲示し、学習したことが振り返れるようにしておく。
	2 本時の目標を確認する。	クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。	
展開	3 本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。(個人)。	◎ 大事な言葉に線を引くことができるか。	・ 「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。
	4 全体で共有する。 T 仕事は何ですか。 C 重い物を吊り上げる仕事。 T そのために、どんな作りになっていますか。 C 丈夫な腕が、伸びたり動いたりするように作っている。 C 車体が傾かないように、しっかりした足が付いている。		・ デジタル教科書を示し、線を実際に引き、照らし合わせながら確認する。
	5 カードにまとめる。	◎ 教科書の言葉を用いてまとめることができるか。	☆ C児には、大事な言葉を書くことができる穴埋め式のカードを使う。 ◆ 本文から、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えている。(思C(1)ーウ)【発言、カードの記述】
まとめ	6 本時の振り返りをする。		
	7 次時の学習について知る。		

(3) 授業観察の視点

- ・ カードを同一形式にしたり、児童の実態に応じて使い分けたりすることで、言葉に着目しながら、自分の考えをもつことができたか。
- ・ デジタル教科書を用いて、観点別に色別したことで、「問い」「答え」がわかりやすくなっていたか。

7 板書計画



8 本時の振り返り

(1) 本時の概要

本時では、クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取った。第2時、3時で乗用車、バス、トラックの「しごと」と「つくり」を読み取っているのので、同じ学習の流れを用いて学習を進めた。デジタル教科書には、「しごと」と「つくり」が書かれているところを色別に枠で囲んだ。

言葉に着目するために、「つり上げる」「のびたりうごいたり」「しっかりしたあし」を動作化した。

まとめとして、カードに「しごと」と「つくり」を書き写した。2～3人を除き、ほとんどの児童が自力で書くことができていた。

(2) 実践の振り返り

・言葉に着目する意識の高まり

前時までにも、それぞれの車の「しごと」や「つくり」を読み取ってきた。その際にも、着目させたい言葉を取り上げ、指導してきた。そのため、どんな「しごと」か、どんな「つくり」をより明確にすることができた。また、同じ形式のカードを活用することで、本文のどこを読んだらいいのかを児童自身が、着目しやすくなった。

・デジタル教科書の活用のよさ

本単元、さらには「うみのかくれんぼ」の単元より、デジタル教科書を用いて、観点別に色分けして視覚的に捉えやすくしてきた。デジタル教科書の使い方にも、徐々に慣れてきた様子で、線を引いたり囲んだりしながら、必要などころに着目することができていた。間違えても簡単に消すことができるので、児童の意欲にも繋がっていた。ただ、担任側から、児童のタブレットの画面を直接確認しにくい面もあり、活動の隙間時間に遊んでしまう児童もいることが課題である。



(3) 協議内容

【成果】

- ・デジタル教科書を活用することで、線を引きやすかったり、視覚的に分かりやすかったりするために、問いや答えを探したり、言葉に着目したり、挿絵と文章をつなげたりするのに効果的だった。
- ・デジタル教科書で児童の学習進捗の確認することができた。
- ・言葉の一つ一つを丁寧におさえ、動作化することで、理解が深まっていた。
- ・文と挿絵を対応することで、より理解が深まった。
- ・前時までの表を活用することで、取り組みの見通しがもてていた。
- ・自分のめあてを選択しているところがよかった。
- ・児童がタブレットを使いこなしていて、「線を引く」等スムーズに行っていた。

【改善点】

- ・低学年は自分でめあてを決めるのではなく、全体で共有するめあてを確認し、最後に振り返った方が有益である。
- ・タブレットで手いたずらをしている児童への対応の手立てを考える。
- ・本文をそのまま書き写すのではなく、大事な言葉だけのカードにした方がよかった。
- ・一対一ではなく、様々な答えが出てくる発問を工夫する。
- ・教師の意図しない児童の発言への返し方を工夫する。

(4) 指導講評

- ・発表に向けてのまとめである。本校の研究主題の大事な言葉は何か。

全員が発問に向き合わなければならない。また、そのような発問をしなければならない。

「まだ考え中です。」も大切な意思表示である。

子ども(低学年)にとっての主体的とは、「楽しい」「面白い」が大事である。

- ・今日の授業での「主体的」は、子どものどんな様子か。主体的な学びのためにどんな努力・準備を



したか。答えがひとつの発問では子どもは考えない、深まらない。

様々な答えが出てくる発問を考えられるかどうか。そんな授業をしてほしい。

- ・ 一対一の授業では子どもは「見付ける作業」に終始してしまう。正確に読むのは大事だが、学びの蓄積を生かすのであれば、子どもの自発性を生かしてもよかった。
- ・ 大事な言葉に着目させたいのであれば、全文が必要か。一番大事な言葉について話し合ってもよかった。全文ではない言葉を抜き出して線で囲っている児童もいた。
「本当に全部の文が必要ですか」という児童への揺さぶりがあっても良かった。
「じょうぶなうで」「しっかりしたあし」をおさえたかったのでは。「じょうぶなうで」と「しっかりしたあし」の後には大事な言葉なので句読点がある。板書の際、うっかり書き損じてしまった。
- ・ カードとワークシートは違う。
カードを「しごとカード」と「つくりカード」にして、それらを「そのために」でつなぐという方法もあった。
- ・ 接続詞は、論理(理由)である。「つくりカード」が複数必要なことに気付かせる展開でもよかった。
- ・ 「うんうん」とうなずくのが授業での対話である。今日もたくさんいた。
タブレット使いこなしていたのは今までの蓄積があったからだろう。
- ・ どんな工事車両があるのか、実際に見に行く前に調べてから行こう。
調べてから行けば、実物を見た時の感動が違うはず。
- ・ 映像(デジタル教科書等)の活用について。
言葉が分からない子でも映像で理解できることがある。
デジタル教科書の活用法はこれからいろいろと考えていくべきである。
- ・ 自分でめあてを決めることについて。
方向性はいいのだが、低学年では無理だと思う。中学年以降で取り組んでほしい。
低学年では「今日の授業のめあて」をみんなで振り返った方が有益である。
- ・ 視写のまとめ方、大事な言葉だけのカードにした方がよかったかもしれない。
児童をどうやってみんな同じ土俵に乗せるか、工夫する。
- ・ 本日の始業時、今までの学習をふり返るとき「しごと」「つくり」ではなく、子供が車種を言う事に意識が傾いてしまった。あそこは落ち着いて、発問の仕方を工夫するべきだった。
- ・ 板書に残すと子供の記憶に残るので、教師の意図しない児童の発言への返し方は、落ち着いて的確に返答し、板書に残さない工夫も必要である。

低学年 分科会（第2学年）

麻布小学校教育目標 元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

低学年分科会として目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

低学年児童の実態

- ・学習意欲は高いが、言葉に着目せず読み取りが不十分であったり、自分の考えをもっているが表現できなかつたりする児童が少なくない

低学年分科会 教師の願い

- ・重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことを伝え合うことができるようにしたい。

主体的に学び合う姿

- ・言葉に着目して、考えをもつ。
- ・観点をもとに、文章から読み取ったことを整理する。

豊かに表現する姿

- ・読み取ったことをもとに、分かったことを伝え合おうとする。

カリキュラム・
マネジメントの視点

〈生活科との関連〉

- ・オンライン動物園を行い、ペットの獣医ではなく動物園の獣医という職業のイメージを作る。

〈道徳との関連〉

- ・命や自然のことを学ぶときに動物を題材としているので、獣医の人柄を思い出させたい。

手立て1

実生活につながる単元課題の設定

- ・文章を正確に読み取った上で、自分の体験と比べ、文章を自分の事として考えるという必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

手立て2

ICT機器の活用

- ・タブレットを活用することで、やり直しがしやすく、教科書の書き込みに抵抗が少なくなる。また、本文から大事な言葉を探し出したり、文章構成を整理したりしやすくするのに有効である。

手立て3

振り返りの充実

- ・毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、「考えたこと」「気付いたこと」について振り返りを行う。児童が意欲的に進められるようにするため、学習状況や感想について、全体で交流の機会を設けたり、有効な振り返りを意図的に紹介し、児童が学習の面白さを味わうことができるようにする。

手立て4

対話活動の充実

- ・対話の目的や対話活動における視点を提示したり、考えさせたりしながら、4つの対話（教師、作品、友達、自分）を意図的に取り入れる。目的や視点を明確にすることで、児童が振り返った時に対話活動後の成果が分かるようにする。
- ・ペア・トリオでの学習を取り入れ、教師が習熟度を考慮し、学び合いができるように、教師が意図的に設定する。また、クラス全体での考えの共有はタブレットのスクールタクトを有効活用する。

手立て5

語彙を豊かにするための工夫

- ・ぐんぐんタイムで言葉遊びを継続的に取り入れたりと、新たに学習した語彙を掲示し、日常的に目に触れるようにしたり、教材で出た表現を使った日記を課題にしたりすることで、授業で獲得した表現方法や語彙の定着を図る。

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年9月29日(水)

対 象 第2学年2組 26名

授業者 鳴海 大祐

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

低学年分科会の目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

- 1 単元名 「かんそうこうりゅう会をしよう」
教材名 「どうぶつ園のじゅうい」 (光村図書 第2学年上巻) 筆者 植田美弥

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【知(2)-ア】
- ・ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思C(1)-ア】
- ・ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつことができる。【思C(1)-オ】
- ・ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【思C(1)-カ】
- ・ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知(2)-ア】	① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【思C(1)-ア】 ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。 【思C(1)-オ】 ③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 【思C(1)-カ】	① 進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを共有しようとしている。

3本単元について

(1) 単元観

本単元の指導事項として、小学校指導要領（平成29年告示）国語 第1学年及び第2学年に記載された以下のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力・判断力・表現力等]

① 読むこと

(1) ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

単元で児童に身に付けさせたい力は、

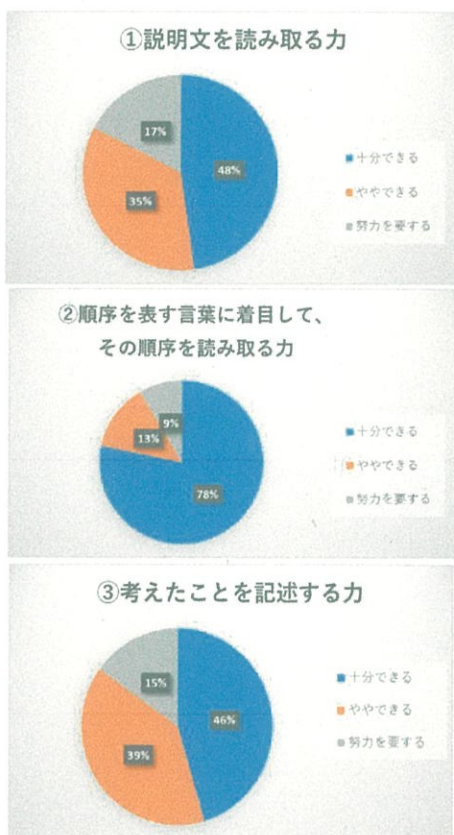
- ① 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力
- ② 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもって伝え合う力

上記を身に付けるために、本単元では、「かんそうこうりゅう会をしよう」という学習課題を設定した。学年の目指す児童像を達成するために、重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことや考えたことを伝え合うことができる力を身に付けさせるということに重点を置いて指導していく。そのために、教材文から仕事をする「理由」と「工夫」を読み取る活動を通して、ひきつけられるところを探したり、自分の知識や経験と結び付けながら感想を書いたりする学習活動を行うことで、自分の思いや考えをもたせたい。また、感想交流会を「学級内交流」と「学年交流」の二つの交流場面で設定した。学級や学年で交流することにより自分と違う友達の感じ方を知ったり、考えつかなかったことを聞いたりすることで、感想を書いたり伝えあったりする楽しさを味わわせたい。

説明的文章の単元の「たんぼぼのちえ」で「二、三日たつと」「やがて」「このころになると」などの『時を表す言葉』を使って順序よく説明することのよさについて学んできた。本単元では、一日の『時を表す言葉』に着目し、時間的な順序を考えながら文章の大体を捉えさせていく。時間の推移に沿って話を進めていくと事実が整理しやすいことに気付かせたい。日常生活の中でも、時間的な順序に沿って考えたり話をしたりすることができる児童の育成を目指す。

学習したことと日常生活を関連させるため、常時活動で行っている週末日記でも、時を表す言葉を使わせて文章を書き進めていけるようにしたい。ただ時を表す言葉を時間の推移に沿って自分の体験を文章に書けるように指導していく。

(2) 児童観



左記の①の結果は、児童が本年度9月初めに受けたレディネステスト（夏休みの学習のまとめワークシート）の結果の「説明文を読み取る力」の部分のデータをグラフにしたものである。①の結果から、文章を読み取るための手が見つけられる能力が身につけていない児童が17パーセントいることが分かる。

本学級の児童は、一学期に、「たんぼぼのちえ」の説明文で、『時を表す言葉』に着目し、「順序」を読み取ることを学習した。その後のレディネステストの結果が②の結果になっている。「たんぼぼのちえ」の学習を通して、8割の児童が季節や何日間などの一日より長い時間を表す言葉の『時を表す言葉』に着目することができている。この学習を生かして、「どうぶつ園のじゅうい」では、一日の中での時間を表す言葉の『時間を表す言葉』に着目させて、「順序」を読み取らせていく。

また、③のデータは、自分の考えを書くことができるかについてのテスト結果である。自分の感想・考えを書くことができる児童は多いが、自分の経験と結び付けて考えることにまだ慣れていない児童が日常の中では多く見られる。

本単元を通して、自分の体験と結び付けて、感想をもつことができるように、指導していく。

(3) 教材観

本教材は、獣医の一日の仕事が、日記のように時間を追って書かれており、時間的順序を捉えるのに適している。また、「朝」「見回りが終わるころ」などの語句が段落のはじめに書かれていることや、それぞれの行動などの後にその仕事の理由が書かれていることで、読み手に分かりやすい構成になっている。「いつもすること」「ある日特別にすること」というまとまりでも捉えることができ、事柄の順序ということと合わせて指導できる教材である。

説明的な文章の学習として、これまでに、わけを表す接続詞や文末表現などを学習した。本教材でも、「なぜかというところからです」「～ので」など、わけを表す言葉に着目させたい。どんな仕事を何のために、どんな工夫をしてされているのかを読み取りながら、動物に対する筆者の思いや考え方に気付き、共感したり感動したりしながら、読み進められるようにしたい。また、自分が知っているお医者さんと獣医さんを比べたり、人間の病気と動物の病気を比べたり、さらには子供自身が保護者などから優しくしてもらったり、心配してもらったりした経験を想起させることで、実体験で知っていることと重なる部分を比べ、考えさせる。そこから感想をまとめていき、他の児童と自分の感想を交流し、より深い学びにつなげていきたい。

(4) 学習材の分析

<どうぶつ園のじゅうい>

おわり		中						はじめ	段落
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	内容
まとめ	入浴	日記の記入	ペンギンの治療	ワラビーの治療	にほんぎよるの治療	いのししの診察	動物園の見回り	仕事の紹介	内容
これで、ようやく長い一日が終わります。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつ園を出る前 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日のしごとのおわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・お昼過ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お昼前 	<ul style="list-style-type: none"> ・見回りがおわるころ 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の植田美弥さんが、「わたし」であること。 ・ある日のわたしの仕事内容を紹介していくこと。 	読み取らせたい言葉(順序性)
	<ul style="list-style-type: none"> ・だからなのです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼(叙述から) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ので 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼(叙述から) 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼(叙述から) 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜかというところからです。 		読み取らせたい言葉(わけ)
	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつ園を出る前には、かならずおぶろに入ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうあったできごとや、どうぶつを見て気がついたことを、日記に書きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎでくすりをのませてはかせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・三人のしいくいんさんにおきえてもらって、ちりょうをしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・えきの中にくすりを入れて・くすりをこなにしてバナナにはきむ・こなをはちみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・しいくいんさんがえさをたべさせ、その間に、そつと当ててみました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日「おはよう」と言いながら家の中へ入り、こえもおぼえてもらえるようにし 		読み取らせたい言葉(くふう)
	<ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつ園の外にもち出さないために 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよいちりょうをすることができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎで ・ひとあんしんです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はぐきのちりょうは、とてもいたので 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっと、のみこんでくれました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いのししがこわがらないように 	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんして見せてくれるようにする 		筆者の人物が読み取れる文章

4 研究主題に迫るための手立て

○ 実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「かんそうこうりゅう会をしよう」という単元課題を設定した。読み取った内容を自分の実生活の経験と比べ、書いた感想を友達と交流するという見通しをもたせることで、目的意識をもって学習に取り組むことができるようになる。 「かんそうカード」を読み合い、友だちにシールを貼ってもらったり、感想を書いてもらったりし、評価してもらい喜びを味わわせる。文章を正確に読み取った上で、自分の体験と比べ、文章を自分のこととして考えるという必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

○ ICT機器の活用

本単元の指導の重点である「大事な言葉を読み取ること」についての作業を容易にするための手段として、タブレットの「スクールタクト」と「デジタル教科書」を活用する。考えの共有にスクールタクトを活用することで、お互いの考えをクラスで一斉に共有することができる。また、デジタル教科書では、失敗してもすぐやり直しができるので、児童の教科書への書き込みに抵抗が少なくなる。「仕事の訳」と「仕事の工夫」に線を引かせたり色で分類させたりすることが容易にでき、本文から大事な言葉を探し出したり、文章構成を整理したりするのに有効である。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「考えたこと」「気付いたこと」の2つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。児童自身が学習を意欲的に進められるようにするため、児童の学習状況や感想について、全体での交流の機会を設けたり、有効な振り返りを意図的に紹介し、児童が学習のおもしろさを味わうことができるようにする。

○ 対話活動の充実

(1) 「4つの対話」による意図的な対話活動

「4つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話）」を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていく。

(2) 学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定する。習熟度を考慮し、学び合いができるように同じペア、トリオで意図的にグループ編成をし、単元を通して学習していくようにする。また、クラス全体での考えの共有においては、タブレットのスクールタクトを有効活用する。

(3) 考える視点の提示

「仕事の訳と工夫」から「筆者の心情」を読み取るために言葉や文章に着目させて、深く読み取ることができるようにする。教師がオンライン動物園で学習したキリンについての文章から「筆者の心情」を読み取るために飼育員さんの仕事のくふうから、自分の体験と結び付けたモデリングを示すことで、自分の体験と結び付けた感想がもてるようにする。

○ 語彙を豊かにするための工夫

日常活動では、より多くの語彙を獲得するために、ぐんぐんタイムで、「しりとり」や「言葉相撲」に継続的に取り組んでいる。新たに学習した語彙を掲示し、日常的に目にふれるようにすることで語彙を増やすことにつなげる。家庭学習では、学習した教材の中に出てきた表現を使って日記を書くという課題を日常的に出すことにより、授業で獲得した表現方法や語彙の定着を図る。

5 単元計画と評価計画 (全11時間)

時	目標	学習内容	◆評価規準 ・留意点 ☆支援
1	単元のめあてや学習計画を知り、初発の感想を書くことができる。	1 本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうぶつ園のじゅういのかんそうを書こう。</div> 2 単元課題「かんそうこうりゅう会をしよう」についての学習計画を知る。 3 交流会の感想カードの例を確認する。 4 範読を聞き、初発の感想を書く。 5 感想を子ども同士で交流する 6 振り返りをする。	◆イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 ・事前にオンライン動物園の授業を行っているのでその経験と結び付けられるようする。
2	時間を表す言葉に気をつけて読み、内容の大体を読み取ることができる。	1 前時の振り返りをする。 2 前回の範読から自分が印象に残ったところを確認する。 3 本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">みんなのかんそうをせいりするにはどうしたらいいか考えよう</div> 4 時間を表す言葉を確認する。 5 時間の流れになるように感想を並び変えて、時間的な順序で説明されていることを確認する。 6 振り返りをする。	◆イ-① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【発言・ワークシート】 ・時間や動物をバラバラに掲示する。 ・児童の感想をスクールタクトに貼り付けてスクールタクト上で時間の流れを確認する。 ・デジタル教科書を使って、時間を表す言葉に印を付ける。
3	朝の獣医の仕事について読み取ることができる。	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">じゅういさんの朝のしごとを読みとろう。</div> 3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4 「朝」の仕事をワークシートにまとめる。	◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。

		<p>5 筆者の仕事に対して感じたことや感じたわけを表に記入する。</p> <p>6 全体で感想を交流する。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>☆ 筆者の仕事に対して感じたことをどのように表現したらいいか、まず担当がモデルを示す。</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>
4	見回りが終わるころの獣医の仕事について読み取ることができる。	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p> <p>じゅういさんの見回りがおわるころのしごとを読みとろう。</p> <p>3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。</p> <p>4 グループで交流して、訳と工夫を確認する。</p> <p>5 「見回りが終わるころ」の仕事をワークシートにまとめる。</p> <p>6 筆者の仕事のくふうに対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。</p> <p>7 全体で感想を交流する。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>◆ア-① 共通、相違、事柄</p> <p>の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>
5	お昼前の獣医の仕事について読み取ることができる。	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p> <p>じゅういさんのお昼前のしごとを読みとろう。</p> <p>3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。</p> <p>4 グループで交流して訳と工夫を確認する</p> <p>5 「お昼前」の仕事をワークシートにまとめる。</p> <p>6 筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。</p> <p>7 全体で感想を交流する。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>◆ア-① 共通、相違、事柄</p> <p>の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>
6	お昼すぎの獣医の仕事について読み取ることができる。	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあて確認をする。</p> <p>じゅういさんのお昼過ぎのしごとを読みとろう。</p> <p>3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジ</p>	<p>◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】</p>

		<p>タル教科書に色分けをして線を引く。</p> <p>4 「お昼すぎ」の仕事をワークシートにまとめる。</p> <p>5 筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。</p> <p>6 グループ（3人）で、思ったことについて交流する。</p> <p>7 全体で感想を交流する。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。</p> <p>・グループの話し合いの前に話す・聞くの掲示物を読んで交流の仕方の確認をする。</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>
7	<p>夕方の獣医の仕事について読み取ることができる。</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあて確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>じゅういさんの夕方のしごとを読みとろう。</p> </div> <p>3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。</p> <p>4 「夕方」の仕事をワークシートにまとめる。</p> <p>5 筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。</p> <p>6 グループで、思ったことについてワークシートを読み合い、感想シールを貼る（3択：同じ意見・質問がある・なるほど）。</p> <p>7 全体で感想を交流する。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】</p> <p>・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。</p> <p>・グループでの交流の時には、質問がある場合は、言葉での交流も可</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>
8	<p>一日のしごとの終わりと動物園を出る前の獣医の仕事について読み取ることができる。</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時のめあて確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>じゅういさんの一日のしごとのおわりとどうぶつ園を出る前のしごとを読みとろう。</p> </div> <p>3 言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。</p> <p>4 「一日のしごとのおわり」と「どうぶつ園を出る前」の仕事をワークシートにまとめる。</p> <p>5 筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。</p> <p>6 グループ（3人）で、思ったことについて読み合い一言コメントをつける。</p> <p>7 全体で感想を交流する。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】</p> <p>・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。</p> <p>・スクールタクトを使ってコメントさせる。</p> <p>イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】</p>

9	自分が一番友達に伝えたい感想を選び、「かんそうカード」に感想を書く。	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあて確認をする。 <div data-bbox="496 277 1066 353" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「かんそうカード」にかんそうを書こう。</div> 3 「かんそうカード」に書くことをワークシートから選ぶ。 4 教員がたんぼぼのちえを題材にして、感想の書き方を提示する。 5 感じたことや感じたわけ」「筆者の仕事の様子」「考えたことや気付いたこと」を「かんそうカード」に書く。 6 振り返り	
10 (本時)	クラスで交流することができる。	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあて確認をする。 <div data-bbox="496 842 1010 918" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かんそうこうりゆう会をしよう。</div> 3 感想交流会をする。 4 感想交流会の振り返りを書く。 5 全体で交流の感想を発表する。	◆イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 イ-③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】
11	感想交流会に向けて「かんそうカード」に自分の経験を結び付けた感想を推敲することができる。	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあて確認をする。 <div data-bbox="496 1211 968 1288" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よりよいかんそうカードを作ろう。</div> 3 ①仕事のくふうについて思ったこと②筆者について思ったこと③自分のことと比べて書いてあるかを確認する。 4 「かんそう」カードを書き直す。 5 振り返りをする。	◆イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
12	感想交流会を学年で行い、感じたことを共有することができる。	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあて確認をする。 <div data-bbox="496 1630 965 1706" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友だちがかんじたことを知ろう。</div> 3 学年全体で「かんそうカード」を使って交流する。 4 振り返りをする。	◆ウ-① 進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを共有しようとしている。【発言・記述】 イ-③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】

6 本時の展開 (10/12)

(1) ねらい

- ・学級で交流し、自分の考えたことや気付いたことを振り返ることができる。

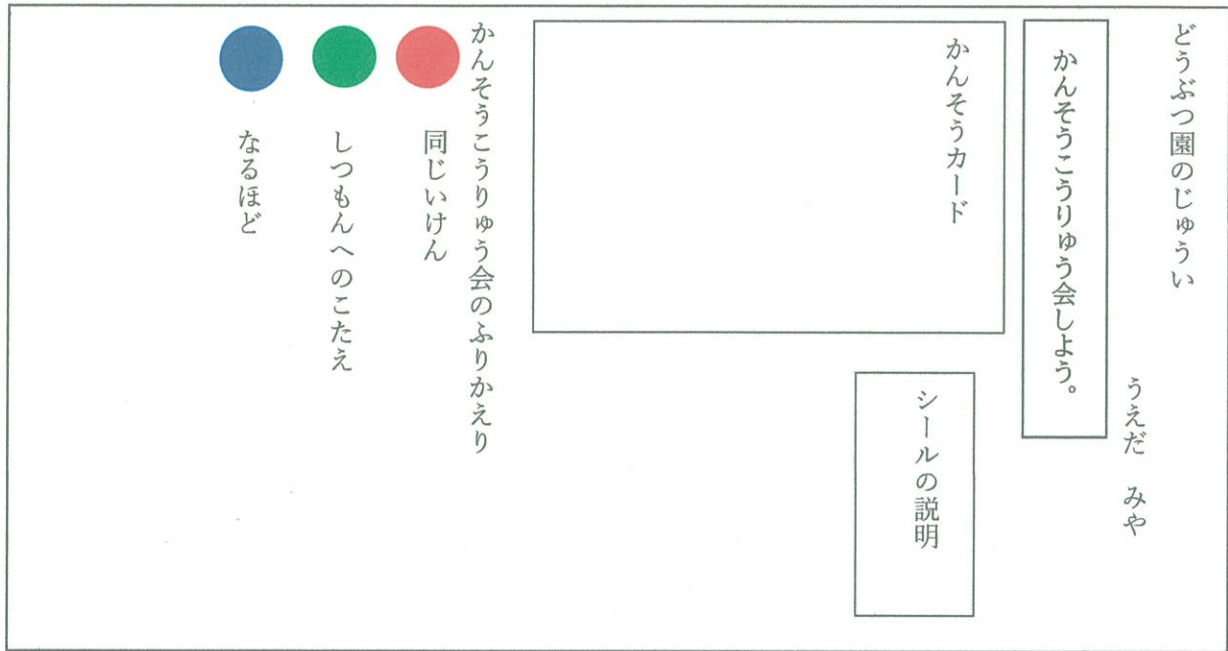
(2) 本時の展開

時間	学習内容	指導事項	評価規準
	T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">かんそうこうりゅう会をしよう。</div>		・前時で作った表を基に本時の学習の自分のやるべきことを想起させる。
展開	3 感想交流会をする。 T グループで、「かんそうカード」を読み合い、感想シールを貼ったり、コメントを書いたりしましょう。 4 感想交流会の振り返りを書く。	・グループの人の意見を読んで自分の意見と比べたり共有したりすること。 ◎かんそうカードのコメントに、自分が着目した言葉とともにコメントが書けているか。	◆イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 ◆イ-③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】 ☆ 「かんそうカード」にシールを使って表現させることで、文字を書くことに抵抗のある児童にも意思表示しやすくする。 ・赤が「同じ意見」、緑が「質問がある」、青が「なるほど」のシールを用意する。 ・コメントも書けるようにする。 ☆ C 児には、机間指導で、そのシールを選んだ理由を考えさせる。
まとめ	5 全体で交流の感想を発表する。 T 感想を読んで考えたことや気付いたことを発表しましょう。 C みんなが僕と同じ意見で嬉しかった。 C こういう考え方もあるんだなと思って、びっくりした。		・視点 「考えたこと」や「気付いたこと」

(3) 授業観察の視点

- ・ 感想の交流会が子どもたちの新しい気づきが生まれる場になっていたか。

7 板書計画



8 本時の振り返り

(1) 本時の概要

本時は、第9時間目までに読み取ったことについて書いてきたものから一番心に残っているものをクラスで紹介しあった。友達の感想文を読んでそれについて、シールを貼って感想を示した。

さらにかける児童は一言コメントとして、「～というところが一緒だった」などと、どの部分に共感したかのコメントを書いた。その後、全体で感想交流会についての振り返りを行い、それについての発表を行った。24人中23人がコメントまで書くことができた。さらに24人中20人までがどの部分に共感したのかを記述することができていた。



(2) 実践の振り返り

- ・児童が感じたことを書き表す意識の高まり

本時を迎えるまでに、児童は叙述から筆者の仕事の工夫や筆者の人柄を読み取ったり、筆者と自分の体験とを比べたりした感想を「感じたことと感じたわけ」として記述する学習を行ってきた。毎回、教員からエピソードを紹介して、筆者の人柄の理解や自分の体験と比べることを促すことで、児童に叙述を読み取る力と感じたことを書いて表す力を身に付けさせた。

本時では、感想交流会で、友達の感想文を読み、その感想についてコメントを書かせた。ただ、「よかったよ」などと書くだけではなく、自分がどこに着目してそのことについてどう感じたのかを書かせた。先にシールで自分の気持ちを表したことで、手が止まっている児童には「どうして、~と思ったのかそのわけになる部分を書きましょう」と促すことで、特に支援が必要な児童以外の児童全員が自分の考えをコメントとして書くことができた。感想交流会の振り返りについても書かせたが、時間が十分に取れなかったので、時間配分をもっとしっかりと計画して設定しておくべきだった。

(3) 協議内容

【成果】

- ・シールを貼ることで書くことが苦手な児童も意思表示できた。
- ・自分の経験と比べて感想を書くことができた。
- ・感想をしっかりと書くことができていた。
- ・シールがもらえてうれしい、共感してもらえてうれしいと児童が感じるができる。
- ・シールやコメントが次の時間の「よりよい感想を書く」ことにつながる。
- ・シールでの意思表示は表現の第一歩となった。
- ・前時までには感想を書くために読み取りをしっかりとしていた。
- ・感想をしっかりと書くことができていた。

【改善点】

- ・授業の初めに本時は何のためのどんな時間なのか確認があるとよかった。
- ・ワークシートとノートの併用は大変なのではないか。今回はワークシートだけでよかった。
- ・時間的にグループは4人がよかったのではないか。
- ・一人分を読む時間が長いように感じた。個人差もあるがもう少し多くの感想を読ませたかった。
- ・振り返りをするのがねらいだっただけで、振り返りの時間をもっととることができるよかったです。
- ・振り返りの場面で、何を書くのか混同した様子だった、指示が明確だとよい。今回は単純に感想を書かせればよかったのではないか。

(4) 指導講評

- ・児童一人ひとりが感想文をしっかりと書けていて、しかも全員が個性的な文を書いているところがすごい。モデル文を書くときと大体同じことを書く子どもがいるのに、自分の書きたいことをきちんと選んで書くことができています。児童一人ひとりがしっかりと文章を読み取ることができているということである。2年生では、内容の大体を読むことが目標だが、どんな工夫をしているか、中身を読む（精査解釈）、自分の体験と比べて読む、これがよくできている。1年生のときからの積み重ねがよくできている。2年生になってからもよくできている。

- ・日常的な指導「語彙を豊かにするための指導」ぐんぐんタイムでのしりとり、言葉ずもうなど日常的、継続的に行うことが大切であり、これで言葉の力がつく。
- ・「どうぶつ園のじゅうい」は時間的順序がはっきりとした文章でニホンザルやペンギン等の対象物の方へ焦点がいてしまう。しかし、何が出てくるかということ以上に大切なのは時間の順序である。ニホンザルについて読み取る、ではなく、「お昼前の～」など時間的順序に焦点を当てた単元計画になっていたのがよい。何に気を付けて、どんな力をつけたのか、時間的順序に目を向けさせたいのであれば、それが分かるような指導を行う必要がある。日常指導、継続指導を大切にしてほしい。すぐに効果は出ないが続けてほしい。
- ・感想交流会はだれのためにするのか。子どもたちが自分たちのためにすること。子供たちが自分たちでやりたい、もっと詳しくしたいから、というモードが薄い。教師がどのような投げかけをするのが大切である。「読んでもらって、書いてもらいます」先生が私のために、というにおいを出している。丁寧な言葉で語りかけるのはよいが、「書いておいてくれると」「やってもらいたい」ではだめである。「どうすればよい？」というような問いかけだと、次にこうしたいという子どもたちが自分のためにやりたいという気持ちが出てくる。主体的に取り組む子どもを育てるためには、最初から子どもたちに聞く。わからないときは「感想交流会というのもあるよ」と言い選択肢を与える。子どもの主体性をしっかり育ててあげる。
- ・交流の人数について。ほとんどの子供が200字以上書いている。なかなか読むのは難しい。読む時間がどれくらいかかるかという見通しをしっかりとつ。指導案を作るときは子どもの実態から考えて作る。3、4人グループで回すのもよい。書き終わった人は書き終わった人同士で回すのもよい。シールの数が変わってしまうので、学級の実態でやり方を決めるとよい。
- ・子どもがしてきた活動は、感想を読んでコメントを書く。読んで理解して書く活動をしてきた。その活動をして振り返るのではなく、今日やったことを振り返る。自分がしたのは、友達の感想を読んでどうだったかを書くことである。今日なら振り返りで、交流のよさが出てくるとよい。

中学年 分科会（第3学年）

麻布小学校教育目標 元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

中学年分科会として目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

<p>中学年児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に着目し、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力は 8 割程度の児童が身に付けている。 ・一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力については、単に「面白い」「すごい」等だけではなく、根拠を基に感想や考えをもつことができる児童は 3 割程度である。 	<p>中学年分科会 教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを人に説明したり伝えようとしたりにすることに、苦手意識をもたずに取り組めるようにしたい。 ・学習したことが日常生活に活用できる経験を積ませる事を通して学ぶことの楽しさを味わうことで、意欲的に学習に取り組む児童を育てたい。 ・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。
--	--

<p>主体的に学び合う姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを元に、自分の考えを他者に進んで伝えようとしようとする。 	<p>豊かに表現する姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。 	<p>カリキュラム・マネジメントの視点</p> <p>〈総合的な学習の時間との関連〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元学習後、おすすめするこまについてまとめ、本校の日本語学級の児童に紹介する。 <p>〈特別活動との関連〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や出張スピーチ、モジュール学習等を活用して、学習内容を生かせるようにする。 <p>〈地域との連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会を企画し、自分の考えを伝えることの喜びを味わわせるようにする。
<p>手立て1 段落の役割を視覚的に捉える手立て</p> <p>文章全体の構成を見て分かりやすくするために図にまとめる。形式段落だけでなく、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分け、「問い」と「答え」があることで、文章全体に対しての役割を押さえる。本単元では、「説明文の家」と名付けた図を使い、「まとまり」を意識できるようにする。</p> <p>手立て2 振り返りの充実(自分自身との対話)</p> <p>毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習を振り返る機会を設け、学習の積み重ねを実感できるようにする。</p>	<p>手立て3 ICT 機器の活用</p> <p>友達と考えの交流を行う際に、「スクールタクト」を用いる。自分の考えと比べてどうかという着眼点の違い等を自分の手で可視化する。また、「デジタル教科書」の機能を用い、サイドラインを引く、色別の枠で段落を囲む等の活動の際に、考えの変化や付け足しなどを効率的に行い、より深い学びにつなげる。</p> <p>手立て4 語彙を豊かにする日常活動</p> <p>「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目し、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。</p>	

※朝学習やモジュール学習などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第3学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年7月16日(金)

対 象 第3学年1組 27名

授業者 向井 江美

研究主題

主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童

「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

- 1 単元名 「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまをつたえよう」
 教材名 「言葉で遊ぼう」(光村3年上巻) 小野 恭靖
 「こまを楽しむ」(光村3年上巻) 安藤 正樹

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・段落の役割について理解することができる。 【知(1) 一カ】
- ・全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 【知(2) 一ア】
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、
 叙述を基に捉えることができる。 【思C(1) 一ア】
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。 【思C(1) 一ウ】
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることが
 できる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 段落の役割について理解している。 【知(1) 一カ】 ② 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 【知(2) 一ア】	① 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【思C(1) 一ア】 ② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。 【思C(1) 一ウ】	① 進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、思いや考えをまとめている

3 本单元について

(1) 单元観

本单元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編第3学年及び第4学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(1) カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

(2) ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

(1) ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

本单元で児童に身に付けさせたい力は、以下の2つである。

①段落の役割について理解し、文章構成を捉える力

②文章や話の内容の全体に対する中心を見付ける力

上記を身に付けるために、本单元は、「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまを伝えよう」という学習課題を立てた。説明的な文章の学習として、これまでに、順序を追って読む力や、大事な語や文に気を付けて読む学習を行ってきた。本单元で「段落」の意味やはたらきについて学び、意味段落につながる「文章のまとまり」を意識して内容を捉える力を培い、今後の説明的な文章の学習の基礎となる内容を押さえていく。また、「問い」と「答え」を手がかりに、全体に対する中心、すなわち大切なことは何か考え捉えることができるようにさせたい。

学習したことと日常生活を関連させるため、「おすすめするこま」を、本校の日本語学級に通級する児童に紹介するという夏休みの家庭学習につなげる。学んだことを生かし、目的を意識して中心となる情報を見付け、表現できるよう指導していく。おすすめのこまを選ぶ際に、なぜそのこまを選んだかという理由も考えさせることで、各こまの楽しみ方という大切な点を落とさずに読み取り表現できるようにさせたい。文章中で紹介されたこま以外にも、つくりが工夫されたこまや、これまでの生活経験で触れてきたこま、言葉遊び、伝統遊び等にも、紹介する対象を広げてよいことにする。

(2) 児童観



見られた。誤答をした児童がいなかったことから、「答え」の読み取りはよく出来ていること

第2学年で学習した「おにごっこ」での既習事項が確かめられるよう、段落内の構成をそろえた「やどおに」について書かれた文章をもとにレディネステストを行った。ほぼ全ての児童が、「やどおに」を紹介した文章であることは理解できていた。「どのような鬼ごっこか」という「問い」の「答え」を見付ける設問では、サイドラインを引いて、「答え」を探していた児童の姿も



がわかる。だが、「おに見つからないように」という叙述の一部が抜けている児童が多かった。文章内容の十分な把握ができていないことが考えられる。

また、「はじめ」「中」「おわり」という文章全体の組み立ての中で、中心はどこかという設問については、「問い」の「答え」が、重要な語・文となる中心であるという捉え方ができている児童は6割程度であった。本単元では、「全体」と「中心」という学習用語を指導し、「文章全体の中心」と「段落内の中心」の理解につながるよう「図にまとめること」で、捉え方を指導していく。

(3) 教材観

本教材は、「言葉で遊ぼう」と「こまを楽しむ」の2つの教材文から成り立つ。どちらの教材文も、段落の一文目に、「問い」の「答え」がある構成になっており、自然と段落を意識できるよさがある。練習教材である「言葉で遊ぼう」は、本単元の中心的な指導内容である「段落」「文章構成」「中心」などについて、非常に分かりやすくシンプルにまとめられた教材文である。「こまを楽しむ」の文章構成は、「言葉で遊ぼう」とほぼ同様のものであるが、「中」での事例の数が増え、文章量が多くなっている。また、「こまを楽しむ」では、「中」の事例が、「回る様子を楽しむこま」と「回し方を楽しむこま」とに大きく二つに分けられている点にも着目させたい。「終わり」での「全体のまとめ」の叙述が、事例の順序と対応していることも、筆者の説明の工夫があることを意識付けることができ、「すがたをかえる大豆」の事例の順序性へとつなげることができる教材文となっている。

段落の役割が明確であり、事例を扱う段落内の文章構成からも「中心」を捉えやすい本教材は、単元の目標に適したものであると考える。

(4) 学習材の分析

<言葉で遊ぼう>

終わり	中			初め	構成	
⑤	④	③	②	①	形式段落	
(筆者の思い) 全体のまとめ	(事例3) 答え 「問い」の	(事例2) 答え 「問い」の	(事例1) 答え 「問い」の	(話題提示) 「問い」	段落の役割	
言葉遊びの名前・具体例・楽しさ						
このように、言葉遊びにはいろいろあり、それぞれに楽しさがあります。言葉遊びをするには、とくべつなところや、広い場所はいりません。ふだん使っている言葉だけで、楽しい時間をすごすことができます。人々は、昔から言葉遊びを通して、言葉のおもしろさにつれてきました。あなたも、言葉遊びを楽しんでみましょう。	元々の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさ。 「とけい・けいと」「くつみがき・実がつく木」	「アナグラム」 言葉を作っている文字の順番をならべかえて、べつ言葉を作る。 「とけい・けいと」「くつみがき・実がつく木」 元の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさ。	「回文」 上から読んで下から読んで同じになる言葉や文。 「きつつき」「しんぶん」「わたしたわしたしたわ」 回文になっている言葉や文を見つけたり、自分で作ったりする楽しさ。	「しゃれ」 似た音や同じ音の言葉を使って文を作る。 「ふとんがふとんだ」「イクラはいくらだ」 言葉のもつ音と意味とを組み合わせたという楽しさ。	「話題提示」 「問い」	段落の内容 言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。
このように人々は、昔から言葉遊びを通して(①と対応)		アナグラムには、元の言葉とは言葉を作る楽しさがあるのです。	回文になっている言葉や楽しさがあります。	しゃれには、言葉のもつ音と楽しさがあるのです。	文 着目させたい言葉 遊んだことがありませんか。(問いかけ)でしょうか。 古くから多くの人に	

<こまを楽しむ>

終わり	中						初め	
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
<p>全体のまとめ (筆者の思い)</p>	<p>「問い」の 答え (事例6)</p>	<p>「問い」の 答え (事例5)</p>	<p>「問い」の 答え (事例4)</p>	<p>「問い」の 答え (事例3)</p>	<p>「問い」の 答え (事例2)</p>	<p>「問い」の 答え (事例1)</p>	<p>「問い」 (話題提示)</p>	<p>段落の役割</p>
回し方		回る様子						
こまの名前・楽しみ方(回り方/回し方)・つくり・捕捉説明								
<p>このように、日本には、さまざまなしゅるいのこまがあります。それぞれ色も形もちがいますが、じくを中心にバランスをとりながら回るというつくりは同じです。人々は、このつくりにくふうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまに楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきたのです。</p>	<p>①すぐり…②雪の上で回して楽しむこま 心ぼうの先が太く、丸く作られている。まず、雪に小さくほみを作り、わらでできたなわを使って、その中に投げ入れて回す。</p>	<p>①曲こま…②曲芸で使われ、おどろくような所で回して、見る人を楽しませる。 台の上で手を使って回し、そこから細い糸の上や、ぼうの先のような回しにくい所へうつしかえて回しつづける。</p>	<p>①たたきこま…②たたいて回しつづけることを楽しむこま 上手にたたいて力をつたえることで、長く回す。</p>	<p>①さか立ちこま…②どちゅうから回り方がかわり、その動きを楽しむこま 回っていくうちに、だんだんかたむいて、さいごは、さかさまにおどきあがって回る。</p>	<p>①鳴りこま…②回っているときの音を楽しむこま その音からうなりこまともよばれている。</p>	<p>①色がわりこま…②回っているときの色を楽しむこま 同じこまでも、回すはやくたよって、見える色がかわってへる。</p>	<p>問い① どんなこまがあるのでしょうか。 問い② どんな楽しみ方ができるのでしょうか。</p>	<p>段落の内容</p>
<p>さまざまなしゅるいのこま じくを中心に…つくり…このつ くりにくふうをくわえ、 回る様子や回し方 さまざまに楽しみ方のできるこ まを生み出してきた</p>	<p>くほみ 雪がふってもこまを回したいど いう人々の思いから、↓つくり にくふう</p>	<p>曲芸 安定したつくり 台の上で手を使って回し、回 しつづけます。</p>	<p>回しつづけること 止まらないように、長く回し て楽しめます。</p>	<p>その動きを…どちゅうから回り 方がかわる動きを 心ぼう かたむく</p>	<p>どう くるくる</p>	<p>表面 とくちゅう</p>	<p>着目させたい言葉、文 さまざまなくふう あるのでしょうか。 …できるのでしょうか。</p>	

…「回る様子」「回し方」を読み取る叙述 /

…他の段落とつながりがある叙述(筆者が強調したいこと→考え・主張)

4 研究主題に迫るための手立て

○ 他教科との関連を踏まえたゴールの設定

自分のおすすめするこまと、その理由をまとめるという学習活動を夏休みの課題として設定し、学んだことを生かせるようにした。おすすめするこまについてまとめるには、他のこまにはない楽しみ方についての確かな理解が不可欠である。主体的に、大切なことを落とさず読み取り表現する必然性をもたせるため、「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのコマを伝えよう」という学習課題の設定をした。伝える相手は、本校の日本語学級の児童とし、国語科の学習で学んだことを、総合的な学習の時間と関連する学習へと広げる「学びの活用段階」へとつなげる。教材文以外のこまや、日本語学級の児童に伝えたい言葉遊び、伝統遊びへと範囲を広げてよいこととし、主体的に学習に取り組む下地を作っていく。

○ 段落の役割を視覚的に捉える手立て

文章全体の構成を見て分かりやすくするために図にまとめる。形式段落の番号だけでなく、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分けたり、「問い」と「答え」があることで、それらの段落が文章全体に対してどのような役割があるかを押さえたりして、図に書き込む。説明的な文章を読む際に、文章全体の構成を分かりやすくするための方法であることを実感させる。本単元では、「説明文の家」と名付けた図を使い、「大きな部屋」「中くらいの部屋」「小さな部屋」ごとに「まとまり」を意識できるようにする。全体で確認しながら表を完成させていき、次の説明的な文章の単元「すがたをかえる大豆」では、自力で段落の役割を考えられるようにしていく。

○ ICT 機器の活用

友達と考えの交流を行う際に、「スクールタクト」を用いる。自分の考えと比べてどうかという着眼点の違い等を自分の手元で可視化することができるよさを活かしていく。また、「デジタル教科書」の機能を使い、教材文にサイドラインを引く、色別の枠で段落を囲む等の活動の際に、考えの変化や付け足しなどを効率的に行い、より深い学びにつなげるツールとして使いこなせるようにしていく。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「できるようになったこと」「次がんばりたいこと」の3つを挙げ、感想だけでなく、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○ 語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習やモジュール学習の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5 単元計画と評価計画 (全6時間)

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
1	1	学習課題を設定して学習の見通しをもつとともに、段落の意味を理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉遊びやこまについて、知っていることを発表する。 2 学習課題を設定し、既習事項の確かめをして、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまをつたえよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習の計画をたしかめよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 3 「言葉で遊ぼう」を通読する。 4 「段落」の意味を押さえ、一つの段落には、ひとまとまりの内容が書かれていることを確かめる。 5 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用意したこまを紹介し、遊び方を確かめる。(学活・モジュール)
	2	「問い」と「答え」の関係や、「初め」「中」「終わり」の構成を捉えて、文章の内容を理解し、読んだ感想を伝え合うことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとまりに気をつけて、「言葉で遊ぼう」を読もう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 2 第1段落と第2段落を読み、「問い」と「答え」の関係を捉え、第3段落・第4段落から「答え」を見つけてラインを引く。 3 第5段落を読み、その役割について話し合う。 4 「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。 5 「言葉で遊ぼう」を読んだ感想を友達と伝え合う。 6 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介されている以外の言葉遊びの例を出し合い、学習への意欲を高める。→自主学習・家庭学習につなげる。
				<ul style="list-style-type: none"> ・学習用語「段落」「問い」を押さえる。 ・ラインを引く際は「デジタル教科書」を用いる。 <p>イー② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 (C(1)ーウ)</p> <p>【ノート・「スクールタクト」の記述、発言の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「答え」、「初め」「中」「終わり」に着目して、内容を捉えている。

2	3	<p>「問い」と「答え」、「全体のまとめ」に着目して、「初め」「中」「終わり」のまとまりを捉えることができる。</p>	<p>1 本時の目標を確認する。</p> <div data-bbox="534 235 1412 302" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「こまを楽しむ」の文章全体の組み立てを考えよう。 </div> <p>2 「こまを楽しむ」を通読する。</p> <p>3 「問い」と「答え」を見付け、本文にラインを引く。 →「問い①」「問い②」でラインの色を変え、それぞれの「答え」も色を合わせる。</p> <p>4 段落を「初め」「中」「終わり」に分ける。</p> <div data-bbox="646 694 1005 817" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「初め」……「問い」 「中」……「問い」の答え 「終わり」…全体のまとめ </div> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>・段落をまとまりとしてより意識させるため、本文は段落ごとに分割して確認する。</p> <p>イー① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1) -ア) 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】</p> <p>・「初め」「中」「終わり」の文章構成を理解しているか]</p>
4		<p>「問い」に対する「答え」を見付け、段落の中心となる言葉や文を確かめて、文章構成を捉える。</p>	<p>1 本時の目標を確かめる。</p> <div data-bbox="534 1164 1396 1232" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「中」をくわしく読んで、「問い」の「答え」を見つけよう。 </div> <p>2 「問い」の「答え」を探しながら、「中」の段落を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2段落は全員で「答え」を確かめ、本文にラインを引き、図にまとめるという方法を理解する。 ・文章全体の「中心」とは、「問い」の「答え」＝「中」であることを押さえる。 <p>3 各段落の2文目以降の段落内構成について考え、違う色のラインを引く。</p> <div data-bbox="534 1668 1077 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「中」の段落内構成</p> <p>「答え」</p> <p>↓</p> <p>「こまのつくり」</p> <p>↓</p> <p>「回っている時の様子」「回し方の様子」</p> <p>「捕捉説明」</p> </div> <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>・各段落の「答え」を図に整理していく。</p> <p>イー① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1) -ア) 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】</p> <p>・「問い」の「答え」が文章全体や段落の中心になっていることを理解している。</p>

<p>5 (本時)</p>	<p>「終わり」と、「初め」や「中」との段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができる。</p>	<p>1 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。</p> </div> <p>2 「終わり」第8段落の3文を読み、「初め」や「中」の語・文と対応している箇所を探す。</p> <p>3 「終わり」で使われている言葉に着目して、「中」の段落同士の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6個のこまを楽しみ方によって、2つのグループに分類し、段落の関係を押しさえる。 <p>4 文章全体の構成、段落の役割を表に書いて共有する。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>・「中」の段落の順序に筆者の意図があることを押しさえる。</p> <p>アー① 段落の役割について理解している。</p> <p>((1) -カ) 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】</p> <p>・「終わり」と「初め」「中」と対応している言葉に着目し、段落相互の関係を理解している。</p>
<p>6</p>	<p>自分が一番おすすめするこまを選び、選んだ理由とともにまとめることができる。</p>	<p>1 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学びを生かして、おすすめするこまを理由とともに選ぼう。</p> </div> <p>2 自分が一番楽しそうと思うこまを選び、その理由とともにワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみ方を確かめる。 ・本文にないこまを選んだ場合、「答え」にあたる「中心」となる文を考える。 <p>3 「たいせつ」を読み、「段落とその中心をとらえる」ことについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「答え」を見つけることで、文章全体や段落の中心が分かることを押しさえる。 <p>4 「全体と中心」を読み、文章や話の全体に対する中心を捉える。</p> <p>5 学習の振り返りをする。</p>	<p>☆本文にないこまは、楽しみ方のヒントとなるモデル文を用意する。</p> <p>ウー① 進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、思いや考えをまとめている。</p>
<p>夏休み 自主学習</p>	<p>・「おすすめのコマ」について、既習事項を生かして文章にまとめる。</p> <p>・こまに限らず、日本語学級の児童におすすめしたい言葉遊び、伝統遊びについて調べてまとめてもよいとする。</p>		

6 本時の展開 (5/6)

(1) ねらい

段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。		・「中」の段落内構成の確認をする。
	「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。		
展開	3 「終わり」を読み、全体をまとめていると思う言葉・文を考え、発表する。 T 全体をまとめていると思う言葉や文はどこか、考えてみましょう。 C 「このように」という言葉は、「中」を指していて、まとめになっている。 C 「初め」にあった「さまざま、くふう」という言葉がある。 4 段落ごとのこまの楽しみ方について考え、話し合う。 T それぞれのこまは、「回る様子」で楽しむこま、「回し方」で楽しむこまのどちらか考えましょう。 C 「回っているときの」とあるので「回る様子」。 C 「回しつづける」という文で「回し方」を楽しむと分かります。 5 全体で共有し、文章全体の構成、段落の役割を表にまとめる。	・段落相互の関係に着目して、叙述を基に捉える。 ◎自分の考えを、根拠となる理由とともに伝えようとしている。	・まとめ→読んで分かったこと ・「初め」「中」と対応している表現を押さえる。 ・6つのこまを「回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこま」とまとめていることを押さえる。 ・段落ごとに分割した本文を用意して、並べ替えを行い、どうして違う並び方ではないのかを考えさせる。(ラインの色) ・話し合いはペア→全体共有の順で行う。 ・「説明文の家」と名付けた図(文章構成図)を用いて情報の整理をして、段落相互の関係や役割の理解につなげる。 ア-① 段落の役割について理解している。 (1) -カ 【ノート・「スクールタクト」の記述、発言の分析】 ・叙述に着目して「終わり」と「初め」「中」が対応していると気付いている。
まとめ	6 本時の振り返りをする。		・視点 「分かったこと」「できるようになったこと」「次ががんばること」

(3) 授業観察の視点

- ・図にまとめるという活動が、文章全体や段落の中心を捉えることに対して有効な手立てとなっていたか。
- ・「デジタル教科書」の活用は、段落相互の関係を捉えることに有効だったか。

7 板書計画

○「せつ明文の家」の図にまとめよう。

- ・段落のやくわりを考ええると、大切なこと…「中心」＝「中」が分かりやすい。
- ・「はじめ」「中」「おわり」のかんけいがよく分かる。

さか立ちごま 写真 <small>その動きを ↓とちゆうから 回り方がわかる</small>	鳴りごま 写真 <small>回っているときの</small>	色がわりごま 写真 <small>回っているときの</small>
ずぐり 写真 <small>雪がふってもこまを 回したいという人々 の思いから</small>	曲ごま 写真 <small>台の上で手を使って 回し、 く回しつづけます。</small>	たたきごま 写真 <small>回しつづけること</small>

○「終わり」のまとめている言葉、文

このように

- ・こまをまなしゆるいのこま
- ・こまをまなしゆるいのこま
- ・こまをまなしゆるいのこま
- ・こまをまなしゆるいのこま

○「回る様子や回し方」でこまをまなしゆるいのこま

○それぞれのこまは、どちらの楽しみ方が考えよう。の言葉、文でそう考えたか。

「こまを楽しむ」

「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。

安藤 正樹

8 本時の振り返り

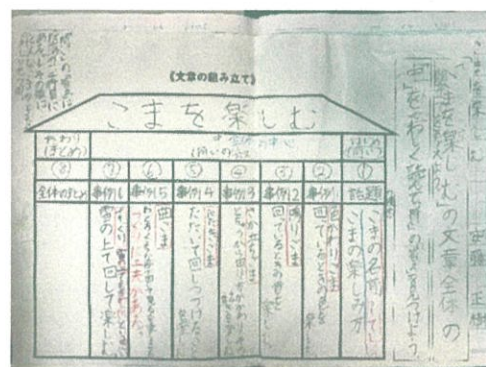
(1) 本時の概要

本時は、「初め」「中」「終わり」の文章構成の中の「終わり」について読み取り、「初め」「中」との関連を考え、文章構成表にまとめる授業として考えた。前時までの学習を活かし、中心となる重要な文を考えサイドラインを引いた。「初め」「中」との関連という観点から、「中」で説明した6つのこまが、それぞれ「回る様子で楽しむこま」「回し方で楽しむこま」のどちらかを考え、全体で共有しながら表にまとめた。重要な文を選ぶことは、ほとんどの児童が出来ていたが、どちらの楽しみ方のこまかを考えるのに苦戦している児童が多かった。

(2) 実践の振り返り

①文章構成を視覚的に捉える図の活用

文章構成表につながる「説明文の家」の図を用いて、中心となる文や言葉を確認することが出来た。単元構成の2次・3時間目から、この図を用い、「初め」「中」「終わり」の構成や「問い」「答え」にあたる文をまとめた。段落ごとに「大きな部屋」「中くらいの部屋」に注意しながらまとめていくことで、段落をまとまりとして意識できるようになった。「『問い』と『答え』が大切ならば、『終わり』はいらないのではないか」という投げかけに「それだと、玄関のない家になってしまうからあった方がいい」という声があり、発達段階的にも親しみやすく、進んで文章構成を考えようとすることに有効であった。



②「段落相互の関係」の文章構成の捉え方

本時では、文章構成の「終わり」にある文章が「初め」「中」にある文章を受けてのまとめとなっていることや、文章の並びが「中」の段落の並び順に関わっていることを考えさせようとしていた。特に、「中」の段落で「回る様子で楽しむこま」は最初の3つ、「回し方で楽しむこま」は後の3つという2つに分かれているということも、文章の書かれ方と対になっていることを気付かせたかった。

だが、デジタル教科書でラインを引き、図にまとめ、さ



らに考えるという活動が2回繰り返されるのは、内容的に多かったという反省が残った。段落相互の関係を読み取るために必要なキーワードを押さえるという活動に重点を置くべきであった。

(3) 協議内容

【成果】

- ・デジタル教科書の活用では、色分けされた本文をスクロールして見られたり、ラインを引いたり消したりしやすかったことで、児童が躊躇なく活動に取り組むことができた。
- ・「説明文の家」が分かりやすかった。
- ・叙述に基づいた理解は殆どの児童ができていた。

【改善点】

- ・活動内容が、本時のめあてと合うよう、全体の構成をクラス全体で共有することで終わるとよかった。
- ・タブレットでできた色分けを説明文の家でしたらよかった。
- ・理解している児童中心に授業が進んでいた。全体が理解できているのかなと感じたが、意外と理解できているのかもしれない。
- ・ICTを含めた教材の選定、デジタル・アナログそれぞれの得意不得意を教員が把握してしていく。
- ・答え合わせのようになってしまった。
- ・時間短縮のため、前時までの活動を生かすとよかった。
- ・「終わり」と「中」の関係性を考えていたが「はじめ」と「おわり」の関係性はどうだったか。
- ・「説明文の家」に書かれた文に着目したらよかった。

(4) 指導講評

学習指導要領3年生と4年生の説明文には、「段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える事例などとの関係などについて叙述を基に捉えること」とある。文章全体の構成をとらえるのは高学年であり、3年のこの時期にどの程度つけさせるか考えるべきだった。実態調査の結果、かなりの児童が掴めている。だから高い目標設定になったのだろうが、ついてこれない児童がいた理由は、「回る様子」と「回し方」にこだわり、2つに分けることをしたからである。

前の時間に大事な言葉「色」「音」「動き」にマーキングできていたか、「回して」のところに印がついていたか。デジタル教科書の書き込みの良さを活かして、前の時間に仕込みをしっかりとしておくことが不可欠だった。3年生としては高い目標を達成させるためのスモールステップが必要である。文章全体の構成は「はじめ」「中」「終わり」と考えて良い。全体のまとめの叙述を捉えることをどこまで子どもに求めるか、実態に応じて考えたい。事例の順序生は「姿を変える大豆」でとらえればよい。

前の学習を生かすようにできているのがこの単元の大きな特徴である。「前に勉強したこと使える」という実感を子どもたちに持たせるためにも、前の学習と今日の学習がリンクしていることが必要である。大事な言葉は掲示して「ほら出てきた」と確認する。意図的に重なるように教材が配列してあるのでぜひ活用して欲しい。

指導案に「着目させたい言葉・文」が書いてあるが「このように」が欠けている。どの言葉が大事なのか、削るならどれを残すのかを考える。

「児童が」分からないことを解決して日常生活に活用させたいという教師の願いが書かれていること、自分で紹介したいこまを紹介できるという閉じ方が良い。

ICTを交流に活用するなど、ツールのいいところを選んでやっていきたい。機能のメリットデメリットをまとめている学校があるので参考にして欲しい。何について振り返るのかを吟味し、スクールタクトを活用して、振り返りを充実させていけるとよい。

中学年 分科会 (4 学年)

麻布小学校教育目標 元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

中学年分科会として目指す児童像

「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

中学年児童の実態

- ・段落相互の関係に着目し、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力は 8 割程度の児童が身に付けている。
- ・一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力については、単に「面白い」「すごい」等だけではなく、根拠を基に感想や考えをもつことができる児童は 3 割程度である。

中学年分科会 教師の願い

- ・自分の考えを人に説明したり伝えようとしたりにすること、苦手意識をもたずに取り組めるようにしたい。
- ・学習したことが日常生活に活用できる経験を積ませる事を通して学ぶことの楽しさを味わうことで、意欲的に学習に取り組む児童を育てたい。
- ・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。

主体的に学び合う姿

- ・読み取ったことを元に、自分の考えを他者に進んで伝えようとしようとする。

豊かに表現する姿

- ・具体的に根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。

カリキュラム・マネジメントの視点

手立て1

学習の見通しを持たせる

モデル文や話型を用意して、「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ということのイメージをもたせることで見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。

手立て2

振り返りの充実(自分自身との対話)

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分らなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設け、学習の積み重ねを実感できるようにする。

手立て3

意見をもつための対話の工夫

ICT 機器を活用することで、意見交流できる場を意図的に取り入れ、児童に考えをもたせたりそれらを広げさせたりする。また、「feelnote」に考えたことや感じたことを載せる活動を通して、自分の考えや思いが伝わる文章を書くことを日常的に意識できるようにする。

手立て4

既習事項を生かすための工夫

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えにふさわしい言葉を選べるよう、語彙を豊かにする。

〈総合的な学習の時間との関連〉

- ・本単元学習後、アップとルーズを活用して考えたことを「feelnote」に載せたり、新聞を書いたりする。

〈特別活動との関連〉

- ・朝の会や出張スピーチ、モジュール学習等を活用して、学習内容を生かせるようにする。

〈地域との連携〉

- ・発表会を企画し、自分の考えを伝えることの喜びを味わわせるようにする。

※朝学習やモジュール学習などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第4学年 国語科学習指導案

日時 令和3年6月28日(月)

対象 第4学年2組31名

授業者 佐藤 千紗

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童
「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

- 1 単元名 「筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう」
 教材名 「思いやりのデザイン」 (光村図書 第4学年上巻) 筆者 木村 博之
 「アップとルーズで伝える」 (光村図書 第4学年上巻) 筆者 中谷 日出

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。 【知- (2) ア】
- ・段落の役割について理解することができる。 【知- (1) カ】
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、
 叙述を基に捉えることができる。 【思C- (1) ア】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつことができる。 【思C- (1) オ】
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、進んで国語を大切に、思いや考えを伝えようとする
 ことができる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。 【知- (2) ア】 ② 段落の役割について理解している。 【知- (1) カ】	① 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【思C- (1) ア】 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。 【思C- (1) オ】	① 進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、筆者の考えをどのように活用できるかを伝えようとしている。

3 本単元について

(1) 単元の設定理由

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編第3学年及び第4学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

【知識及び技能】

(1) カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

(2) ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】

C 読むこと

(1) ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の2つである。

① 段落相互の関係に着目し、筆者の考えがどのような事例や文章構成によって説明されているのかを叙述を基に捉え、対比的に説明することのよさに気付く力

② 筆者の考えを捉え、筆者の考えに対する自分の考えをもつ力

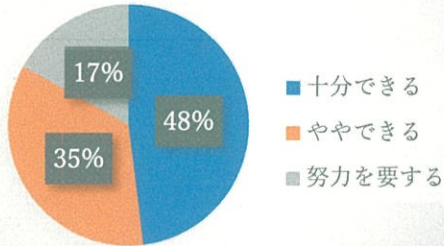
上記を踏まえ、筆者の考えである「伝えたいことに合わせてアップとルーズを選んだり組み合わせたりする」ということを、自分ならどんな場面でどのように生かすか考えをまとめる学習課題を立てた。

筆者の考えを正確に捉えるためには、考えとその事例との関係に着目しながら、文章を読み取る必要がある。そのために、筆者が自分の考えを裏付けるためにどのような事例を挙げているのか、二つの事例の特徴が対比的に説明されていることに着目し、叙述を基に読み取っていく。また「アップとルーズで伝える」については、対比的に説明されていることに加え、類比した事例も挙げて説明するという文章構成から、筆者の考えにより説得力をもたせることに気付かせたい。

自分の考えを具体的に述べる方法の一つとして、「対比する」ということを知り、今後自分の考えを述べるときに必要に応じて使うことができるようにしたい。そこで、本教材が、写真や映像という児童にとって身近な題材であることから、筆者の考えを受けて、「アップ」と「ルーズ」をどんな場面でどのように生かしたいか自分の考えをまとめる。そこから、伝えたいことに合わせた文章と写真を「feelnote」に載せたり、新聞を書く際に活用したりするなど、日常活動にも広げていく。日常で積み重ねることで、自分の生活経験と結び付けて自分の考えに説得力をもたせ表現できるようにしていきたい。よりよいものは、学校の公式 Twitter でも取り上げる。

(2) 児童の実態について

①段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉える力

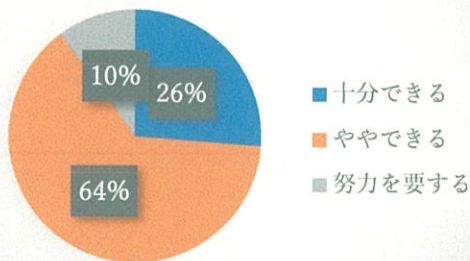


今年度、初めての説明的文章であるため、本单元につながる3年生の既習事項の定着の実態を知るために、調査を行った。

本单元で身に付けさせたい力である「段落相互の関係に着目し、筆者の考えがどのような事例を挙げて説明されているのかを、叙述を基に捉える力」は、左記の結果から分かるように、8割程度の児童が身に付いていると言える。既習事項を確認しながら、筆者の考えがどのような事例によって説明され

ているのかを段落同士を比較しながら叙述を基に捉えていく。筆者の考えと具体的な事例との関係に着目して読むことにより、対比して説明することのよさに気付くことができるようにする。一方で、筆者の考えや事例を捉えることが苦手な児童がいる。事例ごとに色を分けてサイドラインを引いたり、文末表現に着目させたりすることで、対比して説明していることや筆者の考えに視覚的にも気付くことができるようにする。

②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ力



また、「文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力」の定着度は、左記の通りである。「～が面白い」「～がすごい」などの感想はもつことができるが、具体的に根拠を示しながら感想や考えをもつことができる児童は、約3割であった。モデル文を用意し、ゴールのイメージをもたせること、「アップ」と「ルーズ」が活用されている具体的な例を示すことで、自分ならどんな場面で、どのように活用するか考えをもたせていく。

(3) 教材について

「思いやりのデザイン」と「アップとルーズで伝える」は、「人に伝える」ことについて記された説明的文章である。具体的な事例を挙げながら筆者が考えを述べていること、その事例を対比的に説明することで筆者の考えをより分かりやすく、説得力が増して伝えていることにおいて共通している。本教材で挙げられている事例は、段落同士だけでなく、段落の中でも長所と短所に分けて、対比的に説明されている。「アップとルーズで伝える」に関しては、他のメディア（新聞）を類比的に挙げることで、より筆者の考えに説得力をもたせている。どちらの文章も双括型であり、写真と文章の対応、事例で用いられている案内図「A」と「B」、「アップ」と「ルーズ」の対比的な文章構成で表されており、段落相互の関係を捉えやすい文章となっている。

二つの教材文を通して、対比して説明することのよさに気付かせ、自分の考えを具体的に述べる方法の一つとして、今後活用することができるようにしたい。

【学習材の分析】

《思いやりのデザイン》双括型

終わり	中		初め		構成
⑤	④	③	②	①	形式段落
筆者の主張	Bの案内図 事例二	Aの案内図 事例一	筆者の主張	話題提示	段落の役割
相手の目的に合わせて、どう見えると分かりやすいのかを考えながらデザインすることが大切である。インフォグラフィックスは、見る人の立場に立って作る、思いやりのデザインなのだ。	メリット 目的の地までの道順と目印になる建物だけを表しているため、見る人にとっていちばん分かりやすい道順にしている。 デメリット 街全体の様子を知りたい人にとっては十分なものではない。	メリット どこにどんな建物があるかを、だれが見ても分かるように表しているため、多くの人の役に立つ。 デメリット 目的の地が決まっている人にとっては、たくさんの道や目印があるため、まよってしまうかもしれない。	インフォグラフィックスを作るときに大切なことは、相手の立場から考えることである。	伝えたいことを絵や図、文字を組み合わせで見える形にしたものをインフォグラフィックスという。	段落の内容
このようにつまりこののです。 ↓文末表現	いっぽう ↓対比 しかし	そのため しかし ↓どうでしょうか	大切にしていることがあります 例に考えてみましょう。	くでしよう。 それらのように	着目させたい言葉、文

《予想される児童の考え》

- ・相手のことを考えてデザインしているところがよい。
- ・相手の目的に合わせて作ることで、助かる人がたくさんいるので、インフォグラフィックスは「思いやりのデザイン」といえると思う。
- ・「思いやり」とは、相手に対する行動や言葉だけでなく、自分たちがよく目にするもの（地図や表示など）にも表されていることが分かった。

《アップとルーズで伝える》双括型

終わり	中				初め			構成	
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	形式段落	
筆者の主張	写真の場合のアップとルーズ	映像でのアップとルーズのまとめ	事例二 ルーズの特徴	事例一 アップの特徴	①②のまとめ 筆者の主張 問い	「アップ」の事例	「ルーズ」の事例	段落の役割	
送り手は伝えたいことに合わせてアップとルーズを選んだり組み合わせたりする必要がある。「アップ」と「ルーズ」を使い分けることによって、伝えたいことをより分かりやすく受け手に届けることができるはずだ。	写真にもアップとルーズでとったものがあり、新聞では伝えたい内容に合わせて、目的に一番合うものを選んで使うようになっている。	アップとルーズにはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、テレビでは何台ものカメラを用意して目的に応じてアップとルーズを切り替えながら放送している。	勝ったチームの応援席では、ふられる旗、たれまく、立ち上がった観客とそれに向かって手をあげる選手など、広い範囲の様子がよく分かる。各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちまでは分からない。	ゴールを決められたチームの選手の表情、それぞれの応援席の様子など、走っている選手以外のうっさされていらない部分のことは分からない。	ゴールを決めた選手が、両手を広げて走っている。ひたいに光る汗、口を大きく開けて全身で喜びを表しながら走る選手の様子がよく分かる。ゴールを決められたチームの選手の表情、それぞれの応援席の様子など、走っている選手以外のうっさされていらない部分のことは分からない。	何かを伝えるときは広い範囲をうつつす「ルーズ」とある部分を大きくうつつす「アップ」を選んだり組み合わせたりすることが大切である。アップとルーズにはどんなちがいがあろうか。	画面はコート中央に立つ選手をうつつし出した。顔を上げて、ボールをける方向を見ているようだ。	画面には会場全体がうつつし出されており、会場全体が静かに興奮をおさえて、開始を待ち受けている感じが伝わる。	段落の内容
↓文末表現 ↓呼びかけ ↓はずす ↓文末表現	だからこそこのです ↓文末表現 ↓思い出しましょう ↓呼びかけ ↓はずす ↓文末表現	このように ↓問いに対する答え	でも	しかし	アップとルーズにはどんなちがいがあろうか。 ↓問い	コートの中央に立つ選手をうつつし出しました ↓アップ	会場全体がうつつし出されました ↓ルーズ	着目させたい言葉、文	

《モデル文①》

筆者は「伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要がある」と述べている。私は、校庭に咲いている花の写真を「feelnote」に載せたことがある。そのときは一番気に入ったピンク色の花をアップで撮ったが、今思うと、ルーズで花壇全体を撮ることで、花壇に咲いている花の美しさがより伝わったのではないかと思った。「feelnote」に何かを投稿するときには、伝えたいことに合わせて、アップとルーズで撮ることを意識してみたい。

《モデル文②》

私は、出張スピーチのときに、アップとルーズで撮った写真を用意して話したいと思った。私は緊急事態宣言が解除されたら、遊園地に行く。乗った乗り物の写真を、伝えたいことに合わせてアップとルーズで撮りたい。例えば、ジェットコースターだったら、ジェットコースターの高さが分かるように、ルーズで撮りたいと思った。また、ゴーカートだったら、自分が運転している様子が分かるように、アップで撮りたいと思った。筆者の「伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要がある」ということを、これからも意識していきたい。

4 研究主題に迫るための手立て

○ 段落相互の関係を捉える手立て

・ 視覚的に捉える工夫

全文シートを用意し、段落のまとまりごとに色を分けて囲んだり、事例ごとに色を分けてサイドラインを引いたりすることで、文章の構成や、事例が対比的に説明されていることが視覚的に理解できるようにする。

・ 段落意識を高めさせる手立て

既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、小見出しをつける。大事な言葉にサイドラインを引いたり、印をつけたりすることで、段落意識を高めることができるようにする。

○ モデル文や話型の活用

「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ことは、4年生で初めて経験する。そのため、モデル文を用意することで、筆者の考えを生かして、どのように自分の考えをまとめるのかイメージをもつことができるようにする。また、自分の考えをもつことが苦手な児童には、話型を用意したり、「アップ」と「ルーズ」が活用されている具体的な例を示したりすることで、自主的に取り組むことができるようにする。

○ ICT機器を活用した日常活動

考えや思いをもつことを目的とし、ICT機器を活用する。「feel note」に写真（自分が撮影したもの、またはインターネットで調べたもの）とそれに対する自分の考えを書き、載せる活動を行う。受け手（同じグループに所属しているクラスメイト）がいることで、自分の考えや思いが伝わるような文章にすることを、日常的に意識することができるようにする。

○ 対話活動の充実

対話の目的や視点を明確に提示し、「4つの対話」（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「他者との対話」）を意図的に本单元の中で展開していく。児童同士で学び合いができるように、グループ編成を考慮して行う。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○ 語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習やモジュール学習の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5 単元計画と評価計画（全8時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準 ・留意点 ☆支援
モジュール 学習			・「思いやりのデザイン」という題名から、どのようなことが思い浮かぶかを話し合う。	
家庭学習			・「思いやりのデザイン」を読み、初読の感想を書く。 (スクールタクト)	初読の感想の視点 ①文章を読んで考えたこと ②疑問点
1	1	学習課題を把握し、学習計画を立てることができる。	1 説明的文章を読むときの既習事項を確認する。 2 本時の目標を確認する。 学習課題を確認し、学習計画を立てよう。 3 「思いやりのデザイン」の初読の感想を交流する。 4 大まかな文章の構成、話題を確かめる。 5 単元の課題を確認する。 筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう。 6 学習計画を立てる。 7 本時の振り返りをする。	・感想と考えの違いを明確にする。 【感想】心に感じたことや思ったこと。 【考え】考えたことから。意見、工夫、判断、創造など。 ・「生かす」という意味を明確にし、ゴールのイメージをもたせる。

2	2 3	段落相互の 関係に着目し ながら、筆者 の考えとそれ を支える事例 との関係を、 叙述を基に捉 えることができ る。	<p>1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。</p> <p>段落のつながりを考えながら読み、筆者の考えと筆者の説明のしかたを探ろう。</p> <p>3 文章全体を読み、筆者の考え（主張）が書かれた段落を見付ける。 4 案内図の説明の仕方をまとめる。 <手立て> ・文末表現や接続語などの言葉に着目し、筆者の考えを見付ける。 ・写真と文章を対応して読ませる。 ・全文シートを使い、段落のまとまりに着目して、色を分けて囲む。 ・事例ごとに色を分けてサイドラインを引く。 5 どのように説明されているかを全体で共有する。→「対比」 6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・筆者の考えが2回書かれていることに気付かせ、「双括型」の文章であることを指導する。</p> <p>◆イ-① 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える事例との関係について、叙述を基に捉えている。 【ノートの記述の分析】 ・文末表現に着目し、筆者の考えを見付けることができたか。 ・案内図AとBの特徴を読み取り、まとめることができたか。</p>
	4	筆者の考え に対する自分 の考えをもつ ことができ る。	<p>1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。</p> <p>筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう。</p> <p>3 筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」にまとめる。 《筆者の考えに対する自分の考えのもち方》 【視点】 ・共感した ・納得した ・よく分かった <手立て> ・自分の考えに根拠をもたせるために、文章を引用する。 4 全体で共有する。 5 本時の振り返りをする。</p>	<p>・「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ということがどういうことなのかを確認し、「アップとルーズで伝える」の言語活動につなげることができるようにする。 ・視点をもたせることで、「考え」のイメージがもてるようにする。</p> <p>◆イ-② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっている。 【スクールタクトの記述の分析】 ・文章を引用して、筆者の考えに対する自分の考えに根拠をもたせているか。</p>

<p>モジュール 学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップとルーズで伝える」という題名から、どのようなことが思い浮かぶか考える。 ・「アップとルーズで伝える」を読み、初読の感想を書き、感想を共有する。(スクールタクト) ・形式段落に番号をふる。 	<p>初読の感想の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文章を読んで考えたこと ②疑問点 	
<p>5</p>	<p>大事な言葉に着目しながら、「アップとルーズで伝える」の文章の構成を捉え、それぞれの段落の役割について理解することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「思いやりのデザイン」で学習したことを生かして、「アップとルーズで伝える」の文章の構成をとらえよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 文章を「初め」「中」「終わり」に分ける。 《文章の構成を捉えるポイント》 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの段落が何について述べているのかを押さえる。 ・文末表現、接続語に着目する。 4 着目した言葉等を確認し、文章の構成を全体で共有する。 5 筆者の考えを確認する。 6 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全文シートを用意し、段落同士のまとまりやつながりを色分けすることで視覚的に捉えることができるようにする。 ・どのように文章の構成を捉えたのか、具体的な根拠を示して説明できるようにする。 <p>◆ア-② 段落の役割について理解している。 【ノートの記述の分析、話し合いでの発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文末表現や接続語に着目して、それぞれの段落の役割について理解することができたか。

6	<p>筆者の考えとそれを支える事例との関係を、叙述を基に捉え、対比して説明されていることのよさを考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>段落のつながりを考えながら、筆者の説明のしかたを探ろう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 「アップ」と「ルーズ」の説明の仕方をまとめる。 <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全文シートを用意し、段落に着目して、まとまりごとに色を分けて囲む。 ・写真と文章を対応させて読む。 ・事例や内容ごとに色を分けてサイドラインを引きながら読む。 ・表にまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 4 どのように説明されているかをグループで話し合う。 5 全体で共有する。 6 対比して説明することのよさについて考える。 7 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の中だけでなく、段落同士を対比して読むことで筆者の考えに対する根拠を読み取ることができるようにする。 ・既習事項を確認し、「アップ」と「ルーズ」を対比的に読み取ることができるようにする。 <p>◆ア-① 考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。</p> <p>【ノートの記述の分析、発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アップ」と「ルーズ」の事例を対比して読み取ることができるか。 ・対比して説明することのよさを考えることができたか。
7 本時	<p>段落相互の関係に着目して、第7段落の役割に気付くことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者が第7段落を入れた理由を考えよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 筆者が第7段落を入れた理由について考える。 4 グループで意見を共有し、話し合う。 <p>《予想されるもの》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビや新聞だけではなく、他のことにも使えるのではないかと考えさせられる。 <ol style="list-style-type: none"> 5 全体で共有し、第7段落の役割についてまとめる。 6 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えと照らし合わせて読むように助言する。 <p>《話し合いの仕方》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一人ずつ意見を出す。 ②そう考えた根拠を確かめる。 ③他の考えがないか検討する。 <p>◆ア-① 段落の役割について理解している。</p> <p>【ノートの記述、発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類比して説明することにより、筆者の考えの説得力が増すこと、アップとルーズには汎用性があることを理解している。
モジュール 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを確かめる。 ・モデル文を読み、筆者の考えに対する自分の考えの持ち方を確かめる。 		

家庭学習		「アップ」と「ルーズ」を、どんな場面で、どのように活用するか考える。		
3	8	<p>筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 モデル文を基に、自分の考えをまとめる。(スクールタクト) <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて写真や資料を載せる。 ・文章を引用する。 4 学習の振り返りをする。 	<p>◆ウー① 進んで文章を読み、既習事項を生かしながら、筆者の考えをどのように活用できるかを考え、伝えようとしている。</p> <p>◆イー② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっている。 【スクールタクトによる記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を引用しているか。 ・筆者の考えを受けて、「アップ」と「ルーズ」をどのように活用していくかをまとめることができているか。
モジュール学習		<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものを読み合い、共有する。(スクールタクトの共有機能) 		

6 本時の展開 (7/8)

(1) 本時の目標

段落相互の関係に着目して、第7段落の役割に気付くことができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する		・「思いやりのデザイン」で学習したことを掲示し、自分で振り返ることができるようにする。
	2 本時の目標を確認する。		
<p>筆者が第7段落を入れた理由を考えよう。</p>			
展開	3 筆者が第7段落を入れた理由について考える。 (作品との対話) T 第7段落を入れた理由について、考えてみましょう。 C 事例がたくさんあった方が筆者の言いたいことが読者に伝わるのではないか。	◎第7段落を入れた理由を、具体的に根拠を示してまとめているか。 《話し合いの仕方》 ①一人ずつ意見を出す。 ②そう考えた根拠を確かめる。 ③他の考えがないか検討する。 ◎自分の考えが、相手に伝わるように具体的に根拠を示して説明しているか。	☆「第7段落があることでどんないいことがあるか。」と考えることで、第7段落の必要性をより考えることができるように助言する。 ☆筆者の考えと照らし合わせて読むように助言する。 ☆C児童には、押さえない言葉に印をつけた本文(3・6～8段落)を渡し、個別で支援する。 ☆B児童には、具体的に根拠を示して説明することができるように促す。 ☆A児童には、自分の言葉に言い換えたり例を出したりして説明することができるように促す。 ・類比して説明することで、筆者の考えにより説得力を持たせること、アップとルーズには汎用性があることを捉えさせる。 ◆ア-① 段落の役割について理解している。
	4 グループで意見を共有し、話し合う。(他者との対話) T 第7段落を入れた理由について、グループで意見を出し合いましょう。 C 写真でもアップとルーズを選んだり組み合わせたりする必要があることを伝えることで、筆者の考えにより説得力が増すと思う。		
まとめ	5 全体で共有し、第7段落の役割についてまとめる。 (教師との対話) T 第7段落を入れた理由はなんでしょ。		・視点 「分かったこと」 「分からなかったこと」 「次回考えたいこと」
	6 本時の振り返りをする。 (自分自身との対話)		

(3) 授業観察の視点

- ・段落相互の関係に着目することで、類比した事例に気付くことができたか。

7 板書計画

<p>アップとルーズで伝える 中谷 日出</p> <p>めあて 筆者が第七段落を入れた理由を考えよう。</p>	<p>本文</p>	<ul style="list-style-type: none">・映像だけでなく新聞でも↓説得力が増す・テレビ以外でも同じということが分かる。・事例が多い方が読者に納得してもらえらる。・アップとルーズの他の例として新聞を挙げている。 ↓あると分かりやすい。・他の例をあげること、読者にいろいろなものを使うことができる。と気付かせる↓第八段落にもつながる（呼びかけているから）・新聞は子供にとっても身近で、イメージしやすい。 <p>ふり返り</p>
---	-----------	---

8 本時の振り返り

(1) 本時の概要

本時は、第7段落（写真の場合のアップとルーズの使い分け）がなぜあるのかについて考えた。既習事項を確認したあと、自分の考えをノートにまとめた。C児童には着目させたい言葉に印を付けたワークシートを個別に配布した。その後グループで共有し、全体で考えを共有した。30人中25人が自分の考えを書くことができ、共有後再度個人で第7段落の役割についてまとめたところ、30人中27人が自分の言葉でまとめることができていた。

(2) 実践の振り返り

・段落相互の関係に着目することによる類比した事例への気付き

本時を迎えるまでに、全文シートを活用して段落相互の関係に着目しながら読んできた。段落のまとまりごとに色を分けて囲んだり、事例ごとに色を分けて線を引いたりすることで、文章の構成や対比されている事例に気付くことができるようにした。「アップとルーズで伝える」では、既習事項を生かし、児童が自主的に色分けをし、第4、5段落は対比されているということにも気付くことができた。

本時では、最初に前時までの学習を振り返り、段落相互の関係に着目しながら考えることができるようにした。C児童には、着目させたい言葉に印をつけたワークシートを配布することで、自力解決につなげることができた。前後の段落を読み、第6段落は「映像」、第7段落は「写真」について書かれており、対比の事例とは違う「似ているもの(類比)」の事例が挙げられているということに気付くことができた。ただ「事例があると分かりやすい」というだけではなく、写真、新聞といった児童にとって身近なものを例にあげることによって、より説得力が増すという意見も出た。



(3) 協議内容

【成果】

- ・ほとんどの児童が自分の考えを書くことができていた。主体的に書くことができていた。
- ・本文のサイドラインなど、日ごろからの積み重ねが見られた。その積み重ねが本時につながっており、児童がキーワードをたくさん出すことができていた。
- ・言葉に着目して考えることができていた。
- ・第7段落がある理由を考えることで、内容を深く読み取ることができた。
- ・グループでの話し合いでは、課題に沿った会話がされていた。
- ・意図的に指名されていた。

【改善点】

- ・本時のまとめを、学級でまとめておくとよかった。
- ・理由を問うときに、段落の内容を押さえるとよかった。
- ・まとめのときに、本文に立ち戻ってもよかった。
- ・キーワードがたくさんあったので、もう少しまとめてもよかった。
- ・なぜ学ぶのかというゴールを共有するとよかった。(何が課題なのか共有されていなかった。)
- ・まとめの時間、児童が小見出しを作るのか、何をするのかを理解していなかった。
- ・話型を作るなど、工夫があるとよかった。
- ・C 児童への支援は全体に共有してもよかったのではないかな。

(4) 指導講評

担任が一人ひとりを掌握している、分かっていることが伝わってくる授業だった。今一人ひとりがどこまで理解していて、何をしたいと考えているのか、ノートや今までの学びの記録を通してつかもうとしているのがよかった。また、子どもから出てきた様々な思いを授業の中に取り込んで授業を組み立てていくために、子どもの声を使っていた。子供の声拾い上げて授業を作っていた。それが子どもたちも振り返りにつながる。最後の10分間は少し長かった。あの10分間の目的は子どもの思いを大事にすることである。ICTを活用して、ノート全体を写すなど時短の工夫をするとよい。ICTをうまく使うことは時間短縮にもなり、多くの子供たちの願いを一度に出すことができることにつながる。

単元のねらい(教科書では「筆者の考えをとらえて」、指導案では「筆者の考えを生かして」)を意図的に変えていた。教師や学年の思いは分かるが、国語科とすれば、まずは正確に理解することが大切である。どの教科でも子どもの日常の中に入っていく、子どもが日常の中でそれを学びの成果として活用する、使うというところをもっていくことが大切だが、まずは何が書いてあるのかをしっかりと捉えることが大切である。それはとても大切な学習活動である。児童には、本時までにはしっかりと積み重ねられていた。しかし、第7段落に何が書いてあるのかを捉えきれていない児童、そこを捉えることを必要と思っていない児童がいたのではないかな。

高学年 分科会 (第5学年)

麻布小学校教育目標 元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

高学年分科会として目指す児童像

「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

高学年児童の実態

- ・要旨の把握の既習事項である「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉える力」は、7割以上の児童が概ね捉えられている。
- ・「考えをもつ力」については、自分の意見を持ち、まとめられる児童は、7割弱の児童ができる。
- ・課題をグループで解決したり、意見交流したりすることは活発に行っているが、学習して分かったことや友達の見解を基に、再考することに課題が見られる。
- ・ICT 機器においては、日常的に自主学習で活用している。

高学年分科会 教師の願い

- ・既習事項を活用し、児童自身で課題解決できるようにしたい。
- ・学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の意見を考え直し、より納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味したりし、考えを広げていけるようにしたい。

主体的に学び合う姿

- ・言葉に着目して文章を読み、考えをもつ。
- ・他者の意見を聞いて、自分の考えを広げ、再構築した考えを伝え合おうとする。

豊かに表現する姿

- ・友達のをしり、自分の意見を深めたり再構築したりできる。

カリキュラム・ マネジメントの視点

〈家庭学習との関連〉

- ・授業時間を日常生活に生かすために、家庭学習としてブログを作成する。

〈日常活動との関連〉

- ・本学級は、自主学習として、「power point」や「word」を活用している。9月の「新聞を読もう」の単元を見据え、新聞記事の要旨を捉えることや記事に対する考えをもつことに繋げていきたい。

手立て1

単元の課題設定

ブログを書くという課題を設定することで、実生活につながる単元課題にする。本単元を通して、自分の生活を振り返り、今後に生かしていけるような課題設定にする。

手立て2

振り返りの充実 (自分との対話)

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の2つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。

手立て3

意見をもつための工夫 (4つの対話)

対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童同士が交流したりすることで一人一人が意見をもてるようにする。

手立て4

ICT 機器の活用の工夫

本単元は、考えの共有の際に「スクールタクト」、ブログ作成に「feel note」を活用する。加除訂正しやすいことや一度に大人数と交流できる ICT 機器のよさを生かし、本単元では、考えを表現することに活用していく。

※朝学習やモジュールの時間などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第5学年 国語科学習指導案

日時 令和3年6月9日(水)5校時

対象 第5学年1組 32名

授業者 梨岡 和

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像

「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

- 1 単元名 「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう。」
 教材名 「見立てる」 (光村図書 第5学年) 筆者 野口 廣
 「言葉の意味が分かること」 (光村図書 第5学年) 筆者 今井むつみ

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 【知－(2)ア】
- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【思C－(1)ア】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【思C－(1)オ】
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【知－(2)ア】	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【思C－(1)ア】 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【思C－(1)オ】	① 進んで、既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、筆者の考えに対する自分の考えをブログに発信しようとしている。

3 本単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編 第5学年及び第6学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

(1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の2つである。

- ① 筆者の主張とそれを支える事例を基に要旨を捉える力
- ② 筆者の考えに対する自分の考えをもつ力

上記を身に付けるために、本単元は、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という学習課題を立てた。今年度は、高学年の目指す児童像を達成するために、児童に自分の考えをもたせ、発信することに重点を置いて指導していく。そこで、9月の単元である「新聞を読もう」の学習をきっかけとし、新聞記事の要旨を捉え、自分の考えを発信する（ブログに蓄積していく）日常活動を計画している。このことを見据え、本単元では、文章を読んで理解したことに対する自分の考えをブログにまとめる活動を行う。

文章の要旨を捉えることは、児童にとって初めての経験である。本単元では、要旨の捉え方をモデル文や既習事項（主張と事例の関係等）を活用しながら指導していく。

ブログで発信することは、不特定多数の人に読んでもらうことである。つまり、より自分の考えを明確にする必要があり、そのために言葉を精選したり、文章をよりよくするために吟味したりすることが大切である。本単元では、辞書や言葉の宝箱を活用した言葉の精選、ICT 機器を活用した文章の作成、推敲をしていきたい。本単元では、ブログでの文章作成、発信は家庭学習として取り組み、文章の読み取りや自分の考えをもつ段階に重点をおいて指導していく。

(2) 児童観

① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力



今年度、初めての説明的文章の学習であるため、本単元につながる4年生まで既習事項の定着の実態を知るために、調査を行った。

本単元で身に付けさせたい力である「要旨を捉える」ための既習事項である①の力は、左記の結果から分かるように、6割以上の児童が身に付いていると言える。児童には、既習事項を確認しながら、筆者の主張を捉えたり、付箋紙に要点をまとめた上で、文章構成を意識させたりできるようにしていく。

一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。既習事項がまだ身に付いていない児童については、教師が着目してほしい言葉や文に印をつけたワークシート等を作成し、本単元は、「要旨を捉える」ことに注力できるようにしていきたい。

② 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力



自分の力をまとめる力については、6割弱の児童が、既習事項が身に付いていることが分かる。児童には、タブレットを活用し、自分の考えを不特定多数の人に読んでもらう経験をさせていきたい。そのためには、言葉や文章を吟味する必要がある。児童同士で助言し合うことで、よりよい文章になるようにしていけると考える。また、苦手な児童においては、教師からモデル文を配布し、モデル文を話型とし、自分の考えが伝えられるようにしていく。

(3) 教材観

本教材は、文化や言葉に表れるものの見方やそれに対する筆者の考えが述べられている。文章も双括型の文章であり、筆者の主張が書かれている段落を見付けやすい教材であると言える。また、事例の論じ方にも「原因と結果」の関係になっている。主張が見付けやすい点や筆者の考えを支える事例の挙げ方に特徴がある点において、要旨を捉えることに適していると考えられる。

また、本教材文は、筆者のもの見方や考えについて書かれているものである。これらは、文化や生まれ育った環境や生活に起因することを主張している。したがって、児童にとっては、自分の生活体験や経験と筆者の考えを比べながら読むことができると考える。これらは、自分の考えをもつ段階において適していると考えられる。文章に肯定的に読むことと同時に、「この場合においてはどうかろう」と自分の生活経験に合わせて疑問をもって読み進めるなど、文章を自分事として捉えられるきっかけにしていきたい。

(4) 学習材の分析

<モデル文> 「アップとルーズ」(光村図書4年) 筆者 中谷日出

<要旨> ある部分を細かく伝える「アップ」と、広いはんいを伝える「ルーズ」の特徴を理解し、情報の送り手が選んだり、組み合わせたりすることで、伝えたいことがより分かりやすく受け手に届けることができる。(94字)

<要約> 映像で広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といい、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」と言う。何か伝えるときには、このアップとルーズを選んだり、組み合わせたりすることが大切である。アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。しかし、うつされていない多くの部分のことは、アップでは分からない。一方、ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かる。でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなか分からない。このようにアップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあり、目的に応じて、切りかえている。写真でも同じことが言え、伝えたい内容によって、使い分けたり組み合わせたりしている。同じ場面でも伝え方によって、内容が変わってしまうのである。だからこそ、送り手は、伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要があるのである。(389字)

<見立てる>双括型

終わり	中				初め	構成
⑥	⑤	④	③	②	①	段落
筆者の主張	事例2 世界各地の場合	事例1 国内の場合	あや取りにおける「見立てる」ことの説明		話題提示 筆者の主張	段落の役割
「見立てる」という行為は、想像力に支えられている。そして、想像力は、自分の育った自然や生活と深く関わっている。	あや取りは世界各地でも行われ、地域によって「かもめ」や「ログハウス」という名前がつけられている。	日本各地で名前がつけられ、約三十種類にもなる。それぞれの土地の生活と、より関わりの深いものに見立てられた。	あや取りは、ひもが作り出した形に名前がつけられる。これが見立てるといふことだ。作った形と、その名前ではばれている実在するものが結びつけられている。 これは、その土地の自然や人々の生活のしかたなどによって、結び付けられるものがことなるからである。		「見立てる」とは、あるものを別のものとして見ることである。たがいに関係ない二つを結び付けるとき、そこには想像力が働いている。	段落の内容
くだ 断定	世界各地で くしかし ↓対比	日本各地で く結果といえる↓ 原因に対する結果	くだ ↓文末表現	例に考えてみよう ↓呼びかけ	くだである ↓文末表現、断定 「」↓強調	着目させたい言葉

<要旨> 「見立てる」とは、あるものを別のものとして見るということである。これは、想像力に支えられ、わたしたちを育ててくれた自然や生活と深く関わっている。(72字)

<言葉の意味が分かること> 双括型

終わり		中									初め	構成段落		
⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	段落の役割		
筆者の主張		事例② 言語による 違い			事例① 母語を学ぶ 場合			「言葉の広がり」についての説明		話題提示 筆者の主張		段落の内容		
<p>さらに、言葉の意味を「面」として考えることは、ふだん使っている言葉や、ものを見方を見直すことにもつながり、わたしたちが自然だとおもっているものも見方が、決して当たり前でないことにも気付かせてくれる。</p>		<p>新しく言葉覚えるときには、「点」として考えてしまうが、言葉の意味には、広がりがあり、言葉を適切に使うためには、そのはんいを理解する必要がある。母語でも外国語でも言葉を学んでいくときには、言葉の意味を「面」として理解することが大切になる。</p>			<p>同じことは、母語ではない言語を学ぶときにも起こる。それは、英語と同じような感覚で「食べる」という言葉を使ったことが原因である。</p> <p>さらに、世界中のどの言語についても同様のちがいがあある。</p> <p>このように、「一つの言葉のどのはんいまで広げて使うかは言語によってことなる。」</p>			<p>小さな子どもは、限られた例をもとに言葉のはんいを自分で考え、使う。そのため、まちがえることがある。</p> <p>似た場面で覚えた言葉を、言葉の意味のはんいを広げすぎて使いすぎた。</p>		<p>言葉の意味に広がりがあるということはどういうことなのか。</p> <p>「実物を見せるだけでなく、使い方も理解してもらわなくてはならない。」</p> <p>「トップ」の意味には広がりがある。他の似たものを指す言葉との関係で決まってくる。</p>		<p>言葉の意味に広がりがあり、このことを知ることで、言葉を学ぶときに役立ったりふだん使っている言葉やものを見方を見直したりすることにもつながる。</p>		着目させたい言葉・文
さらに		<p>私たちが新しく言葉を覚えるときには、しかし、つつまり、大切になるのです。</p>			<p>同じことは、 それは、が原因です ↓理由</p>			<p>よく考えてみると あるとき↓事例の始まり</p>		<p>言葉の意味に広がりがあるとは、と ういうことなのでしようか。↓問い しかし そう考えると ここから分かるように つまり、また、</p>		<p>しかしなぜなら このことを知っていることは</p>		

<要旨> 言葉を覚えるときには、言葉が指す意味の範囲を理解する必要がある。言葉を一つの意味である「点」ではなく、複数の意味が含まれる「面」としてとらえることで、自然だと思って使っている言葉やものを見方を見直したり、当たり前でないことに気付いたりすることにつながる。(128字)

4 研究主題に迫るための手立て

○ 実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という単元課題を設定した。この学習は、9月の単元である「新聞を読もう」の学習を見据え、児童が新聞記事の要旨を捉え、自分の考えを発信することを目指す。ブログとは、「インターネット上で簡単に公開できる日記などのホームページ」（光村教育図書「小学 新国語辞典 改訂版」）のことである。ブログという不特定多数の人に読んでもらうところに書き込むということもあり「正確に読み取らなければならない」「自分の考えを適切に表現しなくてはならない」という学習に対して必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

○ ICT 機器の活用と家庭学習への発展

本単元の指導の重点は、「要旨を捉えること」と「自分の考えをもつ」ことである。そのため、本単元の表現する手段として、ipad を活用する。

要旨を捉える段階では、児童に「端的に文章をまとめる」必要性を感じさせるために、「スクールタクト」を使用する。「スクールタクト」は同時に学級全員の考えを共有することができるアプリケーションである。しかし、一人が2枚以上に渡って記入してしまうと、全文を表記できない。そのため、既習事項の要約ではなく、「端的にまとめる」ために要旨を捉える必要があるのである。

また、家庭学習において SNS 型掲示板アプリケーションである「feel note」を活用し、インターネット上に自分の捉えた文章の要旨と自分の考えを掲載する経験を行う。（校外には、発信されない）児童は、校内の不特定多数の人に読んでもらえるように言葉や文章を吟味しながら、自分の考えを表現することが考えられる。

この学習を踏まえ、学習指導要領「内容の取扱いについての配慮事項（2）」を実現するために、家庭学習では本や「子ども新聞」等を読んだことを基に自分の考えを「feel note」上に掲載していく家庭学習を年間を通して取り組んでいく。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「次の時間にやりたいこと」の2つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようになると考える。また、学習に対して児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○ 対話活動の充実

（1）「4つの対話」による意図的な対話活動

「4つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話）」を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

(2) 学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定し、学習を行っていく。グループ編成においては、習熟度を考慮し、学び合いができるように編成していく。また、学習形態では、ペア、グループ、学級全体等が考えられる。また、ICT 機器やシンキングツール等の対話の手段も児童自身が選択できるようにしていきたい。

○ 既習事項を生かせるようにする工夫

「要旨を捉える」ことは、5年生で初めて学習する。そのため、既習事項である「要約」や「要点」との違いに気付いたり生かしたりできるように、教師が書いたモデル文を提示し、筆者の主張が入っていることや要点を取り入れることに気付かせていきたい。

○ 語彙を豊かにするための工夫

日常活動において、語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語など、言葉を分類するなどして獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉1つ1つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

5 単元計画と評価計画 (全7時間)

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
		短時間学習	1 あやとりの写真から連想する物を挙げる。 2 「見立てる」の意味を調べたり、題名について考えたことを交流したりする。	
1	1	学習課題を把握し、見通しをもちながら、学習計画をたてることができる。	1 説明的文章の既習事項を確認する。 2 学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習課題を確認し、学習計画を立てよう。</div> 3 「アップとルーズ」の要旨文（モデル文）から「要旨」の言葉や必要な要素を考える。 4 単元の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう。</div> 5 学習計画を立てる。 6 本時の学習の振り返りをする。	・ 要旨に必要な要素 ○筆者の主張 ○文章の話題 ○大切な要点 ・「要約」「要点」との違いを明確にする。 →用途なども確認する。
		家庭学習	1 「見立てる」を音読する。 2 初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 3 感想の交流をする。(コメントし合う)	・初読の感想の視点： ①文章を読んで考えたこと ②疑問点

2	2	<p>「見立てる」の文章の構成や要点を押さえ、要旨に必要な文章を読み取ることができる。</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「見立てる」の要旨を捉えるために、文章を読み取ろう。</p> </div> <p>3 事例の数やどんな事例なのか事例の要点をまとめる。(要旨の捉え方①、②、③)</p> <p>まとめ方</p> <p>① 付箋紙に段落ごとの要点(要約)をまとめる。 ② 事例の数を確認する。 4 筆者の主張を見付ける。(③、④) 5 主張や事例の要点について簡単な文章構成図を作成しながら学級全体で交流する。 6 本時の振り返りをする。</p>	<p>◆イ-①</p> <p>「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。</p> <p>【ノートの記述の分析】</p> <p>既習事項を基に、筆者の主張を見付けることができているか。段落の要点を基に簡単な文章構成図を作成することができるか。</p>
	3	<p>「見立てる」の文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをまとめることができる。</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「見立てる」の要旨をまとめ、文章に対する自分の考えをまとめよう。</p> </div> <p>3 モデル文を基に、「見立てる」の文章の要旨と筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」に100字以内にまとめる。</p> <p>要旨の捉え方</p> <p>①意味段落をまとめる②段落の関係を捉える ③主張が書かれている段落を見付ける ④主張を見付ける ⑤文章をまとめる</p> <p>4 学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5 コメントを基に、自分の考えを見直す。 6 本時の振り返りをする。</p>	<p>◆イ-②</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。</p> <p>【スクールタクトの記述の分析、コメントの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を吟味しているか。
家庭学習		<p>1 「見立てる」の要旨と文章に対する考えを「feel note」に記載する。 2 言葉の意味が分かること」を音読する。 3 初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 4 感想を交流する。(コメントし合う)</p>	<p>・初読の感想の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 文章を読んで考えたこと ② 疑問点 	

3	4 5	「言葉の意味が分かること」の文章の構成や要点を押さえ、要旨に必要な文章を読み取ることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「言葉の意味が分かること」の要旨を捉えるために、文章を読み取ろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 3 事例の数やどんな事例なのか事例の要点をまとめる。 4 筆者の主張を見付ける。 5 主張や事例の小見出しを活用し簡単な文章構成図を作成しながら学級全体で交流する。 6 本時の振り返りをする。 	<p>◆ア-①</p> <p>原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【ノートの記述の分析】 既習事項を基に、筆者の主張を見付けることができるか。段落の要点を基に簡単な文章構成図を作成することができるか。</p>
	6 本時	「言葉の意味が分かること」の文章の要旨を捉え、文章にまとめることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「言葉の意味が分かること」の要旨を文章にまとめよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 3 モデル文や「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」に150字以内でまとめる。 4 学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5 コメントを基に、自分の考えを見直す。 6 本時の振り返りをする。 	<p>◆イ-①</p> <p>「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【スクールタクトの記述の分析】 ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を吟味しているか。</p>
	7	「言葉の意味が分かること」の文章に対する自分の考えをまとめることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「言葉の意味が分かること」の文章に対する自分の考えをまとめよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 3 モデル文を基に、「言葉の意味が分かること」の文章の要旨と筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」にまとめる。 4 学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5 コメントを基に、自分の考えを見直す。 6 本時の振り返りをする。 	<p>◆ウ-①</p> <p>進んで、既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、筆者の考えに対する自分の考えをブログに発信しようとしている。 【スクールタクトやfeel noteの記述の分析】 ・要旨を基に、自分の考えを言葉を選んだり自分の経験等をもちいて記述したりしているか。</p>
家庭学習		<ol style="list-style-type: none"> 1 「言葉の意味が分かること」の要旨と文章に対する考えを「feel note」に記載する。 2 「言葉の意味が分かること」を音読する。 3 初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 		

6 本時の展開 (6/7)

(1) ねらい

「言葉の意味が分かること」の文章の要旨を捉え、文章にまとめることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容	指導事項	評価規準
	T 教師の発問 C 予想される児童の反応	◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 「言葉の意味が分かること」の要旨を文章にまとめよう。		・要旨をまとめることに意欲的な意見や既習事項を活かしている意見を取り上げる。
展開	3 モデル文や「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」にまとめる。 T: 前回の授業で、読み取ったことを基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」にまとめてみましょう。 C: 主張は入れよう。 4 学級全体で読み合い、コメントをし合う T: 「スクールタクト」で共有します。他の人の文章を読んで、自分でいいなと思うところにコメントしてみましょう。 5 コメントを基に、自分の考えを見直す。 T: 他の人の意見を取り入れながら、自分の文章を再度、見直しましょう。	◎前時でまとめた叙述を使って、まとめようとしているか <u>要旨の捉え方</u> ①意味段落をまとめる ②段落の関係を捉える ③主張が書かれている段落を見付ける ④主張を見付ける ⑤文章をまとめる ◎他者の意見を取り入れたり、文章を書き変えたりして自分の言葉で要旨をまとめている。	☆モデル文や「見立てる」を掲示し、自分で振り返られるようにする。 ☆C児童には、必要な文章に線を引いたヒントカードを渡し、文章化できるようにしておく ☆B児童には、自力でまとめることを促し、個別指導等で支援する。 ☆A児童には、要旨の作成過程を説明できるような準備を促す。 ・より筆者の考えが伝わる要旨を探るように促す。 ◆イ-① 「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【スクールタクトの記述の分析】 ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を意味しているか。
まとめ	6 本時の振り返りをする。		・視点 「学んだこと」「次回に向けて」

(3) 授業観察の視点

・モデル文や「要旨の捉え方」を教師側が活用することで、児童は要旨を捉えることの手立てとして有効だったか。

・スクールタクトによる共有は、要旨の言葉を吟味することの手立てとして有効だったか。

7 板書計画

言葉の意味が分かること

今井 むつみ

めあて 「言葉の意味が分かること」の
要旨を文章にまとめよう。

【要旨をまとめる極意】

① 筆者の主張を入れる
② 文章の要点を入れる
③ ズバツと言う↓言いかえる
④ 短くまとめる↓「である」調

○百五十文字以内で、まとめる。

① 自分でまとめる
② 友達と交流する↓コメントし合う
③ もう一度、見直す

○振り返り

① 今日学んだこと
② 次回に向けてがんばること

共有用スクリーン
共有する内容

- ・ 前時の振り返り
- ・ スクールタクトの文章
- ・ モデル文
- (アップとルーズや見立てる)

8 本時の振り返り

(1) 本時の概要

本時は、第1時で児童と教師でまとめた「要旨をまとめる極意」と、第3時でまとめた「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の文章を要旨にまとめた。

児童は、前時までの学習で、筆者の主張は1、11、12段落に書かれていることや各段落の要点を活用し、要旨の文章としてまとめた。

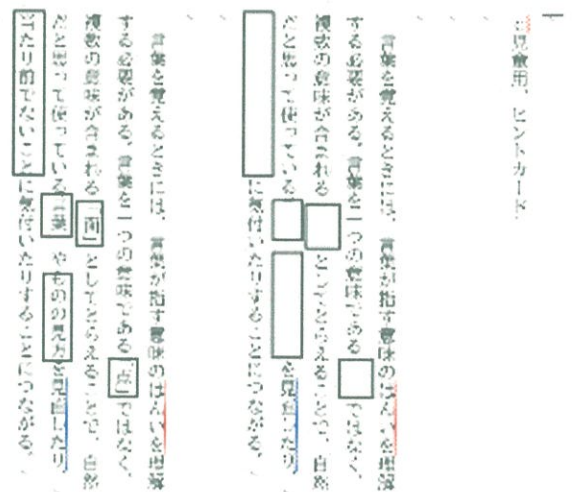
また、「スクールタクト」を活用し、個人でまとめる時間（作品との対話）、他者の意見と比べる時間（他者との対話）、再度自分の要旨を見直す時間を設定し、取り組んだ。

本学級32名中30名は、授業時間に要旨をまとめることができていた。

(2) 実践の振り返り

① モデル文や「要旨の捉え方(要旨をまとめる極意)」を活用した要旨の捉え

本時を迎えるまでに、「見立てる」に比べ、「言葉の意味が分かること」における筆者の主張や各段落や要点を捉えることに児童につまづきが見られた。そのため、本時では、モデル文や「要旨の捉え方(要旨をまとめる極意)」の他に、ヒントカードを用意した。(写真参照)習熟度別にヒントカードを活用し、要旨を捉えるために必要な言葉を使いながら、モデル文を参考に要旨を捉えることができた。

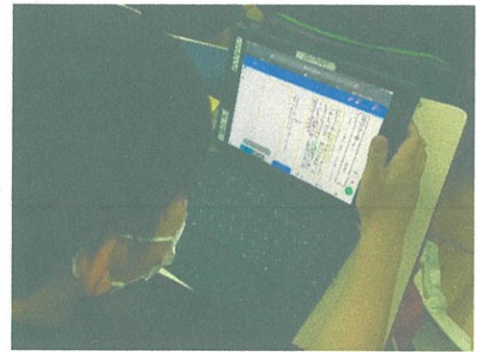


② 「スクールタクト」による要旨に必要な言葉の吟味

目指す児童像を達成するために、文章を読み取ったことを基に、必要な言葉や文章を吟味することを意図した。教師は、本時の中で、意図的に「4つの対話」を設定し、児童は活動を進めていく中で吟味していくことをねらいとした。

第一段階としては、「作品との対話」である。既習事項(モデル文や「要旨の捉え方(要旨をまとめる極意)」)を基に、要旨をまとめた。児童は、要旨に必要な言葉や文を選んだ。第二段階は、「他者との対話」である。「スクールタクト」の機能である「共有機能」を生かし、他者の書いた要旨と見比べ、コメントし合った。児童は、他者の要旨文を見る際に、自分の文章には使われていない言葉や文を見付けることで、吟味することにつながる。また、他者の文章を読むことで、自分の要旨文に自信やより明確な根拠をもつことにつながると考えた。第三段階は、「自分自身との対話」である。自分の要旨文を他者からのコメントや他者の要旨文を基に、再度見直すこと(考えの再構築)につなげた。

以上、三段階を踏まえて、「言葉を吟味すること」を実現しようとした。児童の振り返りからは、「友達のコメントにより間違えに気付けた。」「友達の文章を参考にして、文章を作ることができた」など、教師がねらっていた効果を得られた児童がいたことも分かった。



(3) 協議内容

【成果】

- ・児童が学習計画を見ながら、本時のやることを理解しながら、学習を進めていた。
- ・「スクールタクト」は、苦手な児童が他者の意見を参考にするときにより手立てとなっていた。
- ・コロナ禍においてタブレットの活用(ICT)は、大きな意義があると感じた。
- ・ヒントカードが習熟度別に渡していたため、ほとんどの児童が自分の考えを書くことができていた。
- ・前時の振り返りから授業を始めることで、前時のつながりをもちながら、児童が学習に取り組んでいた。
- ・児童によっては、要点を見比べたり、段落を見比べたりして、言葉を吟味しているようだった。
- ・教室内の既習事項の掲示物が有効だった。

【改善点】

- ・要旨を個人がまとめたところで終わってしまったので、全体共有の確認が必要だった。
- ・コメントをする視点は示していたが、自分の要旨文との比較から考えたことをコメントできるとよかった。
- ・単元構成にもよるが、要旨をまとめる時間と共有してコメントし合う時間で分けてもよかった。
- ・既習事項が身に付いていない児童にとっては、難しい活動だった。(ヒントカードが有効だった)

(1) 指導講評(zoom)

- ・ 「要点」とは何かを教師自身が理解しておくことが大事である。Bレベルはどの言葉をつかったらいいかを児童が判断していること。(本時では、「要旨をまとめる極意」の「ズバっと言う」の中身が重要だった。)

説明的文章では、接続詞に着目させる。これは、論の進め方、構図を知るために必要である。また、指示語使ってまとめていくのである。筆者が伝えたいことをまとめていくことが大事である。その大事な言葉をつなぎ合わせていく



ことが「要旨をまとめる」ことになる。(本時の場合は、1、11、12 段落に共通する言葉や言い換えている言葉。その他は事例)そのためには、要点や文章構成図を全体で共有しておく必要があった。(教室掲示)支援シートの内容(大事な言葉)を最初に出させるとよかった。(短冊などで出させる)

- ・ 「要旨」に必要な「大事な言葉」を全体共有する必要があった。文章が同じ必要はないが、児童は自分たちが作った要旨文を確認するとより次の学習につながる。そして、高学年で、文章中の「大事な言葉」を見付けられるように、中学年は段落の要点をまとめたり低学年では、大事な言葉に着目させたりする系統的な学びが必要なのである。高学年だけで、学ばせることには限界がある。
- ・ 教師側が、9月を見据え6月の単元で身に付ける力を考えていることがよかった。児童は、1回の学習だけでは、力が身に付いていかない。そこで、年間を通して何度も繰り返すからこそ身に付いていくのである。そのため、日常活動に今回の学習が繋がっていることがよかった。
- ・ タブレットの入力は、3年生の「ローマ字」の学習を意識的に指導、実践していくことで身に付けさせていくことが大事である。さらに、低学年は、母音を意識させることが大切である。そうすることで、子音と母音の組み合わせが理解できる。

高学年 分科会（第6学年）

麻布小学校教育目標

元気な子 やさしい子 考える子

〈研究主題〉

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」

～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

高学年分科会として目指す児童像

「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

高学年児童の実態

- ・「要旨の把握」については、4割が初読で把握し、4割が授業を通して把握することができる。2割の児童は文章を読むこと自体に困難さが見られる。
- ・「考えをまとめる力」については、自分の意見をもち、まとめられる児童は、7割以上いる。
- ・課題をグループで解決したり、意見交流したりすることは活発に行っているが、学習して分かったことや友達の見解を基に、再考することに課題が見られる。

高学年分科会 教師の願い

- ・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。
- ・学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の意見を考え直し、より納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味したりし、考えを広げていけるようにしたい。

主体的に学び合う姿

- ・言葉に着目して文章を読み、考えをもつ。
- ・他者の意見を聞いて、自分の考えを広げ、再構築した考えを伝え合おうとする。

豊かに表現する姿

- ・友達のことをしり、自分の意見を深めたり再構築したりできる。

カリキュラム・マネジメントの視点

〈家庭科との関連〉

- ・生活時間を工夫して、有効利用する活動につなげる。

〈特別活動との関連〉

- ・委員会活動、クラブ活動、たてわり班活動で計画的に運営をしていくことに生かしていく。

〈地域との連携〉

- ・地域図書館から関連図書を借り、学習内容を広げる。

手立て1

単元の課題設定

実生活につながる単元課題の設定を行う。本単元を通して、自分の生活を振り返り、今後に生かしていけるような課題設定にする。

手立て2

振り返りの充実（自分との対話）

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の2つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。

手立て3

意見をもつための工夫（4つの対話）

対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童同士が交流したりすることで一人一人が意見をもてるようにする。

手立て4

既習事項を生かすための工夫

これまで学習した学習用語や情報をまとめる方法を教室内に掲示しておく。新しい学習が始まる時に、児童が学習課題を理解した上で、「どのように学ぶのか」を選択できるようにする。

※朝学習やモジュールの時間などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年5月6日(木) 5校時
 対 象 第6学年2組 21名
 授業者 落合 ひかる

研究主題
 主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
 ～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像

「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

- 1 単元名 「筆者の考えを読み取り、『時間との付き合い方』について自分の考えを発表しよう。」
 教材名 「時計の時間と心の時間」 (光村図書 第6学年)

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 【知－(2)ア】
- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【思C－(1)ア】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。 【思C－(1)オ】
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【知－(2)ア】	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【思C－(1)ア】 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【思C－(1)オ】	① 進んで既習事項を活用しながら文章を読み、学習の見通しをもちながら、「時間との付き合い方」に対する考えを発表している。

3 本単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編 第5学年及び第6学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

C 読むこと

(1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の2つである。

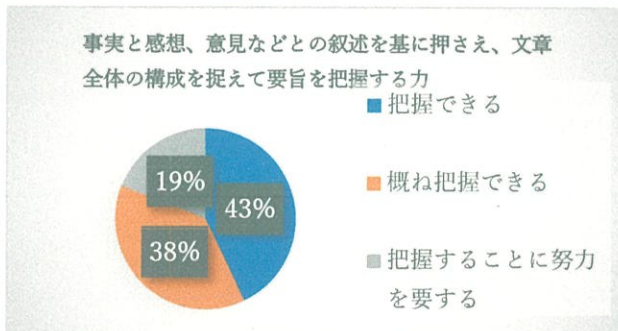
- ① 文章の主張とそれを支える事例を基に要旨を把握する力
- ② 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる力

筆者が、どのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような意見をもっているのかなどに着目して読ませていく。また、筆者の考えと自分の経験と照らし合わせながら、自分の考えをもたせ、「自分の時間との付き合い方」について、伝え合う言語活動を設定した。筆者の「時間」についての考え方を読み取る学習を通して、改めて自分の時間との付き合い方と向き合い、これからの自分の生活について考えるきっかけとしたい。

(2) 児童観

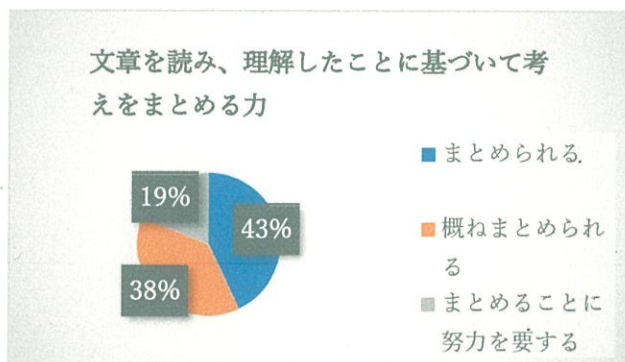
本学級の児童は、5年生の説明的文章「見立てる/言葉の意味が分かること」の学習で、事例・理由や論の展開に着目しながら読むことで「要旨」の捉え方を学んだ。また、事例の「結果」だけでなく、それらの「原因」と結びつけながら読むことで、筆者の主張がより分かりやすくなることに気付くことができた。筆者の考えに対して自分の考えをまとめる活動も行った。

また、「想像力のスイッチを入れよう」の学習では、事例と意見の関係に加えて、それらと自分の経験と結び付けて読むことで新しい考え方に会うことに気付いた。



左記の結果から「事実と感想、意見などとの叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力」については、4割が初読で文章の構成を把握し、4割が授業を進めていくなかで文章の構成を理解することができる。2割の児童は文章を読むこと自体に困難さが見られる。

本学習では、既習事項を教室内に常時掲示し活用できるようにしたり、「4つの対話」を意図的に学習の中に取り入れたりしていくことで、児童が



「分からないこと」を解決していくような手立てを講じる。

「文章を読み、理解したことに基づいて考えをまとめる力」については、自分の意見を持ち、まとめられる児童は、7割以上いる。授業内での行動観察や成果物の分析からは、1つの課題をグループ活動等で解決したり、意見交流したりすることは活発に行っていることが分かる。

しかし、学習当初の文章に対する考えを学習して分かったことや友達の見解を基に、再考することに課題が見られる。

本学習では、「4つの対話」を通して、学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の考えを考え直す機会を設けていく。自分の考えをより納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味する時間を重視することで、自分の考えが広がったり強まったり深まったりするおもしろさを味わわせたい。また、毎時間の振り返りで自分の変化を認識できるようにさせていきたい。

(3) 教材観

本教材の構成は、「初め」と「終わり」で筆者の考えを述べている双括型の論説文である。

「中」の部分では、筆者が「初め」で述べた主張を支える事例が4つ書かれている。それぞれの段落は「…によって『心の時間』の進み方が変わる」という一文からはじまっていて、何の事例について書かれているのか比較的捉えやすい文章になっている。その後は、実験結果を示したり読み手の経験を想起させたりしながら事例に説得力をもたせた内容になっている。「楽しいことは時間が速い」といった共感する児童が多いと考えられる事例や、「刺激が多いと時間は遅くなる」といった児童によって身近な題材や事例であることから、自分の考えをもちやすい教材である。また、「みなさんは…ありませんか」や「…軽くたたいてみてください」など、筆者が読み手を引き付け、より共感的に文章を読み進められるのも、この教材のおもしろさである。

文章を読むことをきっかけに、自らの経験を呼び起こし、自分の生活を見直し生かす経験をさせたい。

(4) 学習材の分析

〈練習〉「笑うから楽しい」…双括型

終わり		中		初め	段落	内容
4	3	2	1			
<p>【まとめ・主張】 私たちの体と心は、深く関わり合っている。心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。</p> <p>【呼びかけ】 何かいやなことがあったときは、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしいない。</p>	<p>【事例②】 表情によって呼吸が変化し、脳内の血液温度が変わり、私たちの心の動きを決めること。 (科学的な事実)</p>	<p>【事例①】 私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こしていること。 (理解を助ける具体例)</p>	<p>【話題】 私たちの体の動きと心の動きは密接に関係している。</p> <p>【主張】 体を動かすことで、心を動かすこともできる。</p>	1		

要旨…「私たちの体と心は密接に関係している。楽しいという心の動きが、えがおという体の動きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。体の動きを脳が読み取ったり、呼吸によって脳内の血液温度が変わったりして心の動きを決定しているのだ。いやなことがあったときは、えがおを作ってみるとよいかもしいない。」147字

「時計の時間と心の時間」…双括型

終わり	中				初め	段落	内容			
8	7	6	5	4	3			2	1	
<p>【主張】 私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵である。</p>	<p>【まとめ】 「時計の時間」と「心の時間」がいかに不可欠なものである。</p> <p>・「時計の時間」と「心の時間」には、ずれが生じること。</p>	<p>【特性の事例④】 人によって感覚が異なる。</p>	<p>【特性の事例③】 身の回りの環境(受ける刺激の多さ)によっても進み方が変わる。刺激多い↓遅い 刺激少ない↓速い</p>	<p>【特性の事例②】 一日の時間帯によっても進み方が変わる。朝・夜の方が速い</p>	<p>【特性の事例①】 その人がそのとき行っていることをどう感じているかによって進み方が変わる。楽しい↓短い 嫌・つまらない↓長い</p>	<p>【用語の定義】 「時計の時間」とは、いつ、どこで、誰が計っても同じもの。</p> <p>「心の時間」とは体感している時間。いつ、どこで、誰でも同じとはいえない。</p> <p>【「心の時間」の特性】 事柄の影響を受けて進み方が変わった</p> <p>り、人によって感覚が違ったりする。</p>	<p>【用語の定義】 「時計の時間」とは、いつ、どこで、誰が計っても同じもの。</p> <p>「心の時間」とは体感している時間。いつ、どこで、誰でも同じとはいえない。</p>	<p>【話題】 私たちは毎日、時間と付き合って生活している。</p> <p>【主張】 「時間」には、「時計の時間」と「心の時間」があり、「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていくうえで、とても重要である。</p>	1	

※おさえたいキーワード、要点

要旨…「私たちがふだん当たり前のようにつき合っている「時間」には「時計の時間」と「心の時間」という性質のちがう2つの時間がある。「心の時間」は、心身の状態や身の回りの環境などによって進み方が異なり、だれにとっても同じものとはいえない。ちがう「心の時間」の感覚をもった

私たちが社会で関わることを可能にしているのは「時計の時間」なのだ。しかし、どうしてもずれが生じてしまう「時計の時間」と「心の時間」、他者との「心の時間」の違いとうまく付き合っていくために、私たちは「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使う必要がある。」(263字)

4 研究主題に迫るための手立て

○ 実生活につながる単元課題の設定

普段自分たちが付き合っている「時間」の使い方を、「時間」の種類やそれらの様々な特性を知る学習を生かして、「筆者の考えを読み取り、『時間との付き合い方』についての自分の考えを発表しよう」という単元課題を設定する。「時間との付き合い方」について自分の考えをもつ段階が、児童にとって自分の行動や「時間」に対する認識を筆者の考えと照らし合わせて考える機会になる。この学習で考えた自分の時間との付き合い方は、今後の実生活の行動指針にもなり得る。つまり、児童は、本教材との出会いにより、文章中の考えが実生活に生かすことができるという経験ができる。この経験を重ねることで、日常的な読書活動に対する意欲にも繋がるようにしていきたい。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の2つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようにすると考える。

また、学習に対して児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○ 対話の視点の明確化

本学級の児童は、対話活動において、お互いの意見を受け入れることは自然とできるが、どのような内容であっても肯定してしまう傾向があり、なかなか個人の考えの広がりや深まりが見られない。そこで4つの対話(「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話」)を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童と考えたりすることで、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

○ 既習事項を生かせるようにする工夫

これまで学習をしてきた学習用語や読み方、情報をまとめる方法(シンキングツール)を児童が常に教室内の見える位置に掲示しておく。新しい学習が始まる時に、児童が学習課題を理解した上で、「どのように学ぶのか」を選択できるようにする。それらを用いて新しい課題を解決する方法を自ら探し出し、試行錯誤できるようにする。

○ 語彙を豊かにするための工夫

語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語など、言葉を分類する

などして獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉1つ1つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

そのために、毎日、朝学習やモジュールの時間などに、「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりして語彙のインプット・アウトプットできる機会を継続的に設け取り組んでいく。

5 単元計画と評価計画（全7時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
1	1	学習課題を把握し、学習計画を立てることができる。	1 題名からどんな文章が書かれているか予想する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">初めて読んだ感想を書き、学習計画を立てよう。</div> 3 教師の範読(「時計の時間と心の時間」)を聞き、感想を書く。(作品との対話) 4 本単元の学習課題を共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者の考えを読み取り、「時間との付き合い方」について自分の考えを発表しよう。</div>	・「文章に対して思ったこと(賛成・反対など)」「疑問に思ったこと」の視点で感想を書かせる。 ・既習事項を確認しながら、計画を立てさせる。
	2 3	主張と事例の関係に着目しながら「笑うから楽しい」の要旨をとらえ、それに対する自分の考えをもつことができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「笑うから楽しい」を分析し、自分の考えをまとめよう。</div> 3 説明的文章を読むときのポイントについて既習事項を確認する。 4 「笑うから楽しい」を、ポイントに沿ってグループで分析する。 (作品との対話、友達との対話) Aフィッシュボーン図Bクラゲチャート図 CステップチャートDその他	

		<p>5 グループでの分析結果を全体で共有する。</p> <p>6 分析結果を基に、要旨を150字程度でまとめる。 (作品との対話)</p> <p>7 要旨を基に、自分の考えを書く。 (自分自身との対話)</p> <p>8 全体で共有する。</p> <p>9 本時の振り返りをする。</p>	<p>ゲチャート図」「Cステップチャート」を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張とそれを支える事例との関係性について全体で確認する。 ・要旨のまとめ方について確認する。 <p>☆自力で要旨をまとめられない児童についてはヒントカードを用意する。</p> <p>◆イ-②</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめている。</p> <p>【ノートの記述分析 →要旨を基に筆者の主張と正対した自分の考えが書かれているか】</p>
2	4	<p>1 前時の振り返りを共有する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「時計の時間と心の時間」を分析しよう。</div> <p>3 説明的文章を読むときのポイントについて既習事項を確認する。</p> <p>4 「時計の時間と心の時間」を、ポイントに沿って個人で分析する。(作品との対話)</p> <p>5 グループで個人の分析を共有し検討する。(作品との対話、友達との対話)</p> <p>6 グループで共有したことを基に、個人で分析をまとめる。(作品との対話)</p> <p>7 分析結果を基に、要旨を150字程度でまとめる。(作品との対話)</p> <p>8 要旨を基に、自分の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に要旨を捉えて、考えをもつことをゴールとして意識させる。 ・ワークシートとして、「Aフィッシュボーン図」「Bクラゲチャート図」「Cステップチャート」を用意する。 <p>☆読み取ることが難しい児童に対しては、ヒントカードを提示する。</p> <p>◆ア-①</p> <p>原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p>

		<p>9 筆者の論じ方について、個人の考えをまとめる。 (作品との対話)</p> <p>10 本時の振り返りをする。</p>	<p>【ノート、ワークシートの記述分析 →文章の内容から「主張」「事例」を捉えられているか】</p>
5 本 時	<p>主張と事例の関係に着目しながら、筆者の論の進め方や意図を考察することができる。</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「時計の時間と心の時間」の分析を、グループで話し合おう。</p> </div> <p>3 読み取る視点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな表現を使っているのか。 ・どんな順序で書かれているか。 ・どんな事例があって、どのように取り上げているか。 </div> <p>4 グループで個人の分析を共有し検討する。 (作品との対話、友達との対話)</p> <p>5 グループで共有したことを基に、個人で分析をまとめる。 (作品との対話)</p> <p>6 分析結果を基に、要旨を150字程度でまとめる。 (作品との対話)</p> <p>7 要旨を基に、自分の考えを書く。</p> <p>8 筆者の論じ方について、個人の考えをまとめる。 (作品との対話)</p> <p>9 筆者の論じ方について、グループで意見を交流する。10分</p> <p>10 個人で再度検討する。10分</p> <p>11 スクールタクトで全体共有する。</p> <p>12 本時の振り返りをする。</p>	<p>◆イー②</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめることがしている。【ノート、ワークシートの記述分析 →呼びかけなどの文章表現に着目しているか →事例を取り上げる順序の意図に着目しているか →事例の内容の意図に着目しているか】</p> <p>・早く終わった児童はスクールタクトで全体共有をし、意見を交流させる。</p>
6	<p>「時計の時間と心の時間」の要旨を捉え、筆者の主張を基に「自分の時間の付き合い方」につい</p>	<p>1 前時の振り返りを共有する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「時計の時間と心の時間」の要旨をとらえ、自分の「時間との付き合い方」考えをまとめよう。</p> </div> <p>3 要旨(既習事項)と考えのまとめ方、を確認する。</p>	<p>◆イー①</p> <p>「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。</p> <p>【ワークシートの記述分析 →要点やキーワードを踏まえて要旨を押さえられているか</p>

		ての考えをまとめることができる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①筆者の主張に対しての考え ②なぜそう思ったのか。自分の経験を例に説明する。 ③今の時間の使い方によりよくしたいところを考える。 ④どの事例を参考に、どう変えていくか考える。 </div> 4 要旨（250字程度）と考えをまとめる。 （作品との対話） 5 スクールタクトで共有し、意見を交流する。 6 本時の振り返りをする。	→筆者の主張や考えを踏まえて、自分の経験を結び合わせて自分の考えをまとめているか]
3	7	「時間との付き合い方」についての考えを話し合っ て、学習を振り返ることができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 筆者の考えに対する自分の考えを発表し合おう。 </div> 3 自分の「時間との付き合い方」についての考えを発表する。 4 話し合っ て考えたことについて感想をかく。 5 本時の振り返りをする。	◆ウー① 進んで既習事項を活用しながら読み、学習の見直しをもちながら、「時間との付き合い方」に対する考えを発表しようとしている。【活動の様子→筆者の考えを自分ごととして捉えて生かそうとしているか]

6 本時の展開（5/7）

（1）ねらい

主張と事例の関係に着目しながら、筆者の論の進め方や意図を考えることができる。

（2）本時の展開

時間	学習内容	・指導事項	◆評価規準
	T教師の発問 C予想される児童の反応	◎豊かな表現を見取る視点	☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 筆者の論じ方について、グループで話し合おう。 </div>	
展開	3 読み取る視点を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・どんな表現を使っているのか。 ・どんな順序で書かれているか。 ・どんな事例があって、どのように取り上げているか。 </div>		◆イー② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【ノート、ワークシートの記述分析

	4 筆者の論じ方について、グループで意見を交流する。10分		→呼びかけなどの文章表現に着目しているか
	5 個人で再度検討する。10分		→事例を取り上げる順序の意図に着目しているか
	6 スクールタクトで全体共有する。		→事例の内容の意図に着目しているか ・早く終わった児童はスクールタクトで全体共有をし、意見を交流させる。
まとめ	7 本時の振り返りをする。		

(3) 授業観察の視点

- ・シンキングツールなどの既習事項は、自分の考えを整理するのに有効な手段であったか。
- ・読み取る視点をも基に、文章を読み取り筆者の論じ方をとらえることができていたか。

7 板書計画

時計の時間と心の時間
一川誠

めあて
筆者の論じ方について、グループで話し合おう。

☆読み取る視点
・どんな表現を使っているのか。
・どんな順序で書かれているか。
・どんな事例があつて、どのように取り上げているか。

*予想されるシンキングツール

フィッシュボーン図 物事をいかに見えて考える

クラゲネット 1つの意見や主張に対して、理由や情報を整理する

ステップ帳 物事の順序を整理する

8 本時の振り返り

(1) 本時の概要

本時は、第2・3時で「笑うから楽しい」の文の構造、論じ方をまとめ、そこでまとめたことを生かし、第4時から「時計の時間と心の時間」の論じ方をまとめた。緊急事態宣言により対話活動ができなかったため、対話部分を省略したり全体共有に変更したりしながら行った。

児童は、筆者の主張や文章構成をおさえたうえで、どのような工夫をして読者に主張を説得させようとしているのかについて、シンキングツールにまとめた。シンキングツールは今回の「時計の時間と心の時間」の文章構造の特徴から教師側がいくつか提示し、そこから自分たちでまとめやすいもの

を選んで読み取りを行い、その後全体共有した。約7、8割の児童が自分なりに筆者の論じ方をまとめることができた。

(2) 実践の振り返り

① 既習事項を生かせるような工夫

国語の文章の読み取りにおいては、児童が「これまでに何を学んだのか」「どのような方法を用いれば課題が解決するのか」などの学びの蓄積の自覚が、他教科と比較し低い傾向があった。ゆえに、単元の初めにこれまで学んだことを共有することに加えて、自然と既習事項を復習できるような教室環境にすることで、児童ができるだけ自分自身で課題解決の糸口を見つけることができるようにした。そうすることによって、児童はどのような観点で読み取っていくことが大切なのかを自分で発見することができたり、他者からもらったアドバイスによって教師の補助がなくても教え合って読み取りを進めたりすることができた。

② シンキングツールを利用した読み取り

5年生までは、自力解決の時間は設けられていたが、読み取る方法は全体で共通だった。小学校最終学年として、これまでの学びを生かし自分でより方法を選択し読み進められるように、多種多様なシンキングツールを示し自由に用いることができるようにした。また、習熟度によっては、読み取ってほしいことのヒントが記載してある量を調整したプリントを配布することで、自力解決ができる児童が格段に増えた。

(3) 成果と課題

※緊急事態宣言により、協議会が出来なかったため、分科会としての成果と課題を示す。

【成果】

- ・既習事項や大事なポイントが掲示されていることにより、主張や文章構成を自分で見付けられている児童が多かった。
- ・習熟度別の手立てがうたれていたことによって、ほとんどの児童が困らずに活動できていた。
- ・ヒントカード（手立て）に頼らず、自分で読み取りたいという意志をもつ児童が多かった。

【課題】

- ・シンキングツールをそれぞれが使いやすいものを選んだことによって、まとめ方が少しずつ変わっていたので、まとめる視点をより明確にし、共有の仕方をより丁寧に示す必要があった。
- ・本時では、自分自身の経験や知識と関連付ける時間がほぼとれなかったため、次時の自分の考えをまとめることにつながりにくかった。

